發行:(一財)國學院大學院友会
https://www.kokugakuin.or.jp
E-mail: inyuukai@kokugakuin.or.jp
〒150-0011
東京都渋谷区東四丁目12番8号
電話　03(3400)7781(代)
FAX　03(3400)7996
郵便振替口座番号:00190-9-11208

國學院大學 院友會報

ご宿泊、ご婚礼、ご会合に、全国のプリンスホテルをご利用ください。
◎お問合せ・ご予約は グランドプリンスホテル高輪　TEL.(03)3447-1111
■高輪・品川　営業アシスタントマネジャー　加藤 昌史(112期)
■高輪・品川　営業　鳥海ちはる(119期)

がんばれ!!新院友

祝辞

一般財団法人 國學院大學院友会
会長 **吉田 茂穂**
(よしだ・しげほ／73政・74神専攻／鶴岡八幡宮宮司)

第127期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今日の佳き日を心からお慶び申し上げますとともに、皆さんを今日まで温かく見守り、育んでくださった保護者の皆さま、ご関係の皆さま、そして教職員の皆さまに、衷心より感謝と敬意を表する次第でございます。

本日から皆さんは、國學院大學を母校とする同窓の組織、私ども一般財団法人國學院大學院友会の一員であり、院友の仲間です。全国の各都道府県にある支部、また世界のさまざまな場所や地域で活躍する院友の先輩たちは全て、今日の皆さんの晴れの姿を我がことのように誇らしく思い、祝杯をともにする気持ちで慶んでおります。これから社会に出るに当たり、皆さんの周囲には、私たち院友の先輩がいるということを、先ず心に刻んでください。

母校國學院大學は、創立百三十七周年を迎えて、確実な歩みを進めておりますことは、周知のことでございます。私どももまた発足以来、百三十二年をともに歩んで参りました。母校の前身である皇典講究所が明治十五年に開設され、その初期の卒業生が明治二十年に、私どもの母体となる「水穂会」を発足してくださったことが源流であります。その後、明治二十三年に『國學院』が皇典講究所の教育機関として設置され、明治二十七年にその卒業生によって、『水穂会』とは別に『院友会』が組織されました。その後両者はいっしょに活動するようになり、『院友会』となりました。

以来、母校を大きな柱として私どもは、途切れることなく全国各地で、相集い合って参りました。今は全国の都道府県に五十九の支部があり、各地にはさまざまな部会や地区部会、職域の会もあります。また、院友経済会、マスコミ院友会、院友学術振興会、法学部OB・OG会の四団体が協力団体として、志を同じく活動・活躍をしております。これからは、身近におられる先輩諸氏の輪の中へどうぞ加わってください。そしてともに活躍されることを、望んで止みません。

國學院大學で過ごした時間の中で、皆さんは何を学び、誰と出会い、そして何を考えたのでしょうか。沢山の嬉しい出来事があったことと思います。また、苦しくつらい時もあったことでしょう。生涯ともに語り合える友人や恩師にも巡り合ったことと思います。

卒業して、時間が経てばたつほど学生時代の思い出は深くなってゆくものです。

これから歩んでゆく社会では、皆さんにもまた沢山の成功や失敗があると思います。一喜一憂もあるかと思いますが、失敗は全力で取り組まなければ現れない結果です。故意には出てこないものです。沢山の失敗をすること。それに正直に向き合うこと。そこから生まれてくるものは、きっと皆さんの歩みを強く後押ししてくれるものとなります。失敗を恐れず成功に満足せずに、どうぞ大きく羽ばたいてください。人は誰でもいろいろな壁にぶつかるものです。しかしどのようなときでも一人ではありません。自分の中にも、支えている思い出や記憶があります。母校で生まれた、沢山の出来事や言葉を思い出すときに、新たに気付く自分もあるものです。皆さんが國學院大學で学び、出会い、考えたことは過去のことではありません。一人ひとりの未来のことではないのでしょうか。

過去をしっかりと見据えなければ、現れない未来があります。相手を考えないと見えてこない自分があります。どうかさまざまな記憶を、経験に変えて、自分自身に正直に、誇りをもって歩んでください。

今日は沢山のことを語り合い、思い出してください。大きな声で校歌を歌ってください。そして、これからは私どもと一緒に後輩たちを、母校を応援いたしましょう。

祝辞といたします。

新院友の皆さんを歓迎いたします

一般財団法人
國學院大學院友会

顧問
新井さきほ　杉山　丈夫
外山　勝志　蛯原　弘
岡崎　正継　安蘇谷正彦
坂口　吉一

参与
船田　君子　河原崎　弘
宇井　克彦　玉井　浩二

評議員
木村　好成　栗生　守男
高徳　雄三　植木　良一
栗本　俊雄　稲葉　久雄
蒲池廉一郎　廣井　武司
田中安比呂　上村　好生
大塚　勤　岡部　定征
廣井　公明　中島精太郎
小川　勇治　坂入　益
佐柳　正三　熊嵜　歳介
田中　恆清　夏井　邦男
中村　直紀　喜多山健二
近藤　篤　赤井　益久
坂倉　良一　橋本憲市郎
百瀬　敏記　藤井　秀嗣
宮西　修治　西川　実希

会長
吉田　茂穂

副会長
今井　亮　佐藤　美穂
針本　正行

常務理事
加藤　元茂

理事
秦　信行　菅野　雅雄
大鳥居信史　吉田　源彦
塙　東男　近藤　正臣
齋藤　大武　松山　文彦
中山　高嶺　岡田　幹雄
黒田　眞子　利根　康教
大平　実　大村　秀司
坂本眞佐人　中西三千代
秋元　善行　古屋　真弘
白川　博一　湯谷　昌生
九條　道成

監事
小林　英夫　角川　賢二
寺澤　悠

第127期生の皆さん
ご卒業おめでとうございます

第127期生のみなさん
ご卒業おめでとうございます

お祝いの言葉

大いなる船出を祝して

村田 守広
(むらた・もりひろ／87神)
竹駒神社宮司
宮城県神社庁副庁長

大いなる可能性を秘め、渋谷の丘の学舎を巣立つ第127期生の皆さん、卒業おめでとうございます。私は皆さんの期からちょうど40期前の87期生です。

私が入学した当初は学生運動の全盛期は過ぎたものの、大学の正門を入ってすぐの校舎玄関の二階窓に大きな赤旗が垂れ下げられていたり、先輩からは以前に大学構内の神殿が過激派の火炎瓶で焼かれた話とか、学生服を着て一人で渋谷界隈を歩くなよ、などという話を聞かされたり、何かピリピリした雰囲気が漂っていたと記憶しています。現在は校舎も新しく建て替えられ、殊に今年の箱根駅伝では母校がかつてない順位でシード権を獲得するなど、院友として大変誇らしく思います。

私の家は累代社家で祖父も父も神職でありましたので、私自身も必然的に祀職を継ぐため大学では神道関係について学び神職の資格を得て、卒業後は明治神宮、神社本庁（出向）、宮城県神社庁、竹駒神社などで様々な経験を積ませて戴き、早くも四十年となります。顧みれば大学卒業後、初めて組織の一員として仕事についた頃は、決して器用になんでもこなせるタイプの人間とは言い難く、与えられた仕事をただがむしゃらにこなすのが精一杯だったと思います。そんな私が仕事の壁にぶつかったり、様々な困難に遭遇した際、幸いにもその時々において上司や先輩や同僚などが手を差し伸べて下さり、時には励まされ、時には背中を押されるなどして、なんとか今日まで大過なく職責を果たして来られたことに今は感謝しています。

皆さんも、これから社会人として自立し、自ら生計を立て、伴侶を求め、家庭を作って子供を育てるという社会的な責任と役割を担うことになるでしょう。これから様々な職種に就かれることと思います。そして、与えられた仕事の中には自分が望まないような苦手なものもあり、多くの困難に遭遇するかもしれません。でも、それが人生なのです。何事にもめげずに真摯な気持ちで全力で取り組めば、必ずやその事を認め、手を差し伸べてくれる人が現れると思います。私自身がそうだったからです。

皆さんはこれから人生という大海原に船出することになりますが、どの方角に柁を切るかによってその行く先は決まります。その柁を切るのも皆さんなのです。院友の一人として今後の活躍を期待しております。

最後に第127期生の皆さんの人生航路に幸多からんことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

大学での学びと経験を大切に

實松 幸男
(さねまつ・ゆきお／97史・99博前史)
春日部市郷土資料館長

第127期の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新たな門出を迎えられることを、心からお慶び申し上げます。

私が卒業しました一九八九年は、昭和の末年（六十四年）でもあり、平成の元年でもありました。卒業証書をみると平成元年三月十五日となっています。皆さんは最後の「平成」の卒業生となられるのですね。平成最初の卒業生から、三十年を経てご卒業される平成最後の卒業生である皆さんへ、簡単ではありますが、お祝いの言葉を送らせていただきます。

私が母校で学んだのは、バブル経済真っ盛りの頃です。小学生くらいから歴史が大好きだったため、大学時代は好きなことを自由に勉強したいと思い、史学科に入学しました。いくらバブル期とは言え、単純に就職のことだけ考えると史学科は不利でしたが、学んだことを活かせる職につければいいかな、という程度の気持ちで入学しました。学生時代に、地方の古文書を調査し、リスト化・解読・勉強する地方史研究会というサークルで活動し、史学科では人間味あふれる恩師のお導きにより、専門の方法を学んで卒業論文の作成を経験したこと、同級生や先輩・後輩と親しく交流したことが、今でも大きな財産となっています。地方の文化財や博物館の現場では、「石を投げれば國學院にあたる」と言われていたほど院友の方が多く、気軽に依頼や相談などができてありがたい限りです。

運良く私は学芸員として博物館施設に勤めることができ、大学での学びや経験が日常の業務に直結する職に就くことができました。しかし、皆さんの中には、私と違って大学の専攻やサークル活動などと関わりのない職種に就かれる方も多いことでしょう。でも、仕事する上ではスクラップ&ビルドはありますが、社会に出たからといって、人生にそれはあり得ません。人間である以上、継続と積み上げ、経験値の上昇があるだけです。長い人生の中で、どんな方でも、必ず大学での学びや経験が活かされる場面があるはずです。せっかく大学四年間で得た学びと経験です。皆さんの歩みの大きな支柱となるよう、ぜひ自分自身で大きく育てていってください。

さらに、これからは働き方も変化して、副業やボランティアなどによる社会参加が増えることで、大学での学びや経験、自分の好きなこと、得意なことを活かす機会が今までより増える時代になるかもしれません。

これからの日本と世界を明るく引っ張っていく存在として、皆さんひとりひとりのご活躍と奮闘を祈念しております。

抱いた想いを大切に

鎌川 浩太郎
(かまかわ・こうたろう／107経2)
㈱ジェイアール東海エージェンシー
(㈱ウェッジ出向中)

平成最後の卒業生という節目になる第127期の皆さま、おめでとうございます。

輝かしい未来が広がっている皆さまですが、不安の方が勝っているのではないでしょうか？

私も同じでした。華やかでエネルギッシュに働く姿に憧れていましたが、いよいよ就職活動が始まるという時は超氷河期と言われる年でした。

まだインターネットが普及しておらず、やっと通話だけの携帯電話を手にできるような少し便利な世の中になりつつある時でした。

今、振り返ればあっという間に加速度的な発展を遂げ、便利な世の中になりました。入試や就職活動が変わり、働き方どころか職種もＡＩなどによって様変わりしていくようです。変化を生かしていくのも付いていくのも大変になってきました。

一方で変わらないものもあると感じています。

あえて、二十年前の自分に振り返りメッセージを送りたいと思います。皆さまにとっても何かしら通じることや感じることがあれば幸いです。

～貴方は、分からないことだらけで、何が分からないかも社会がどのようなところかも分からず期待よりも不安が勝っているようです。

分からないながらも肝に銘じた「サラリーマンであってもビジネスマンとして仕事の成果に報酬を頂く姿勢」「人の役に立つ為には、何事にも誠心誠意、仕事を選ばない」「ゼロ回答しないために頭を働かせ、足を動かす」は今も生きていて、そのお陰で社内外からも信頼を得ていますから、安心して初志貫徹し続ければ結果は後からついてきます～

皆さんにとっての「想い」とは、どんなものでしょうか？

様々な場面で失いがち、忘れてしまいそうな最初に抱いた純粋な想いを大切にしていけば、周囲の環境変化も自分の軸がしっかりしていれば迷いも消え、道も開けます。

最後に皆さまが幸福な人生を歩まれますことを心から願っています。

当たり前のことこそ大切に

渡邉 大輝
(わたなべ・ひろき／126健体)
㈱デサントジャパン
現職　海外営業

第127期の皆さま、ご卒業おめでとうございます。

私は、昨年卒業した第126期生です。社会人生活がスタートして早一年、卒業式がつい最近のことのように感じます。実際に社会に出ると、「感謝の気持ちを言葉にする」。そんな当たり前のことが出来ない人も存在します。皆さんには是非、当たり前のことを当たり前のようにできる社会人になって頂きたいです。その第一歩として、今までお世話になった方々に恥ずかしがらず、面と向かって感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

さて、私は皆さんと一年しか変わりませんが、僭越ながら社会人として常に意識していることを二つご紹介します。

「よく考え、行動する。」

私は大学時代、準硬式野球部に所属していました。高校時代も野球漬けの毎日でしたが、大きく異なっていたのが、野球への向き合い方でした。それは部の方針で、自らの頭で考え、自立することが求められたことです。練習メニューや自分の役回りなどを自ら懸命に考え、行動に移す必要がありました。社会人になってからも、「よく考え、行動する」意識を持つことは確実に活きていると感じます。

「利他の心をもつ」

世の中に存在する仕事には、必ずそれを必要としている人が存在します。この祝辞も、読んでくださる皆さんがいることで初めて意味を持ちます。私自身も祝辞を通じて、少しでも皆さんの背中を押せればと一つ一つの文章を考えている次第です。社会人になると最初は慣れないことばかりで、あらゆる困難に直面するかと思います。そんな時こそ世のため、人のためという「利他の心をもつ」ことが困難を乗り越える手助けになると私は信じています。

この二つのことは、一見当たり前のように感じますが、いざ行動に移そうとすると決して簡単なことではないことに気付くはずです。私もまだまだ未熟者ですが、同じ國學院大學を卒業した者同士、世のため、人のために頑張りましょう。

滝川市
國學院大學
北海道短期大学部
学　長　田村　弘
副学長　平野　泰樹

国文学科長　山寺　三知
総合教養学科長　太田　信二
幼児・児童教育学科長　草薙　恵美子
事務局長　吉田　裕一

〒073-0014　北海道滝川市文京町3丁目1−1
TEL　0125-23-4111　FAX　0125-23-5590
URL　http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

もっと日本を。もっと世界へ。

國學院大學

理事長　坂口吉一
学　長　赤井益久

渋谷キャンパス
〒150-8440　東京都渋谷区東4−10−28
電話　03(5466)0111(代表)

横浜たまプラーザキャンパス
〒225-0003　神奈川県横浜市青葉区新石川3−22−1
電話　045(904)7700(代表)

勤務先・住所等の変更のあった場合は校友課(03-5466-0131)まで必ずご連絡ください。

講座のご案内

お申込み・お問合せは院友会へ

平成31年度（新元号元年度）も本会ではさまざま講座等を開催いたします。
現在、内容が決定しているものをご紹介いたします。大学の先生方に講師を務めていただき、数多くの受講生の皆さまから好評を得ております。初めての受講の方でも分かり易く、途中からの受講も可能です。皆さまの参加をお待ちしております。（受講料は10月以降予定の税率分を含みます）受講ご希望の方は、お問い合わせください。

風土記を読む（第4期）

第４期からは谷口雅博先生にお願いをいたします。「出雲國風土記」を読んでまいります。
中村先生は水曜日の講座でしたが、谷口先生は火曜日となります。
今から1300年前の奈良時代、朝廷は諸国に国情報告書の提出を命じました。その一つが「風土記」です。60カ国ほどの中から僅か５カ国の風土記が、まとまった形で現在まで残りました。

講　　師：谷口雅博先生（國學院大學教授）
開 催 日：５/21・６/11・７/９・９/10・10/８・11/12・12/10・新元号２年/１/21・２/18・３/10（毎回火曜日）以上10回
開催時間：13：30～15：00
受 講 料：16,380円/メンバーズカード提示者・前回受講者14,742円

万葉集への招待（第5期）

『万葉集』は現存する最古の歌集ですが、けっして「古い歌集」ではありません。そこには人々の生活が息づき、現代にも通じる情緒があふれています。万葉びとの歴史、文化、そして習俗などを手掛かりに、『万葉集』の歌を読み進めてまいります。
今期は巻五に引き続き、巻六の行幸歌や宴席歌を読み解いてみたいと思います。当時の人々がどのような社会生活を送っていたのか、考えてみましょう。

講　　師：城﨑陽子先生（獨協大学特任教授）
開 催 日：５/27・６/17・７/29・９/30・10/28・11/25・12/23・新元号２年/１/27・２/17・３/30（毎回月曜日）
開催時間：15：00～16：30
受 講 料：16,380円/メンバーズカード提示者・前回受講者14,742円

生活芸術講座（一般社団法人儀礼文化学会との共催事業）

わが国の文化には、生活と深い関わりをもつものが多くあります。それを儀礼文化の『生活芸術』としています。『生活芸術』は、日本人の生活の中で発生し、長い生活の中で培われてきた文化であり、具体的には礼法・華道・茶道・煎茶・料理などであります。これらの『生活芸術』により、われわれの生活は豊かで美しいものに高められてきました。
この機会に、ぜひ「日本文化の形と心」を考え、体験して頂きたいと思います。

①【茶道】『お茶から探る儀礼の心』
講　　師：田中仙堂氏（大日本茶道学会会長・㈳三徳庵理事長）
開 催 日：９/15　**開催時間**：14：00～16：00　**受 講 料**：2,600円（税込）
②【短歌】『万葉集と大和』
講　　師：上野誠氏（奈良大学教授）
開 催 日：12/８　**開催時間**：14：00～16：00　**受 講 料**：2,600円（税込）

お知らせ

❖「風土記を読む」講座、中村先生から谷口先生へ

國學院大學名誉教授・中村啓信（なかむら・ひろとし／61文・63修文・66博文）先生には、「風土記を読む」講座を平成28年５月から第1期として、平成31年３月までの第３期・３年間をご教授いただいて参りました。このたび、「常陸國風土記」の読了に伴い、先生からはご年齢、ご体調のことなど、平成30年度をもってこの講座の区切りとしたいとのお申出をいただきました。
後任として、國學院大學教授・谷口雅博（たにぐち・まさひろ／93文２・95博前文・99博後文）氏にこの「風土記を読む」講座を引継いでいただきます。
中村先生には、この風土記の講座に先立ち、実に23年間、「古事記全講研究会」を受け持っていただきました。風土記を含め、26年間の長きに渡り、本会で年10回の講座を続けてくださいました。
紙面を借りて感謝申し上げます。

❖「源氏物語講座」一時休講

平成30年度で第12期を数える針本正行（はりもと・まさゆき／82文・84修文・87博後文）國學院大學文学部教授（副学長・本会副会長）の「源氏物語講座」。真木柱（まきばしら）の巻まで進んでおりましたが、４月から学長に就任されることに伴い、一時休講とされたもの。先生から受講生の皆さまへは、「長きに渡り、感謝申し上げます。」とよせられました。
なお、この後の講座については未定。

ご卒業おめでとうございます　今日から院友会の会員です（第127期生）

院友会とは…　本会の正式名称は「一般財団法人國學院大學院友会」といいます。明治15年に國學院大學の前身である皇典講究所が設立され、同20年にその最初の卒業生が『水穂会』という同窓会を結成したのが原点です。その後、明治23年に『國學院』が皇典講究所の教育機関として設置され、明治27年にその卒業生によって、『水穂会』とは別に『院友会』が組織されました。その後両者はいっしょに活動するようになり、『院友会』となりました。
昭和の初期に「財団法人」となり現在の土地を取得しました。その後、平成24年10月１日には、「一般財団法人」へ移行し、現在の「一般財団法人國學院大學院友会」として歩みを新たにいたしました。平成29年には、発足130周年の節目を迎えることができました。
國學院大學の卒業生は「院友／いんゆう」と称し、本会の会員となります（本会定款第５条による）。平成31年２月現在、院友の総数は15万人を超えております。また、すべての都道府県には支部があり（全59支部）、志を同じくする「マスコミ院友会」、「院友学術振興会」「院友経済会」「法学部OB・OG会」の４つの協力団体もあり、会員相互の親睦・交流だけでなくさまざまな公益事業も行っております。本号の第４面、５面には「院友会全国支部長／支部総会開催一覧」を、お祝いのメッセージとともに掲載しております。
本会は、國學院大學の設立の趣旨を発揮し、本会の発展と國學院大學の隆昌に寄与することを目的としております。この目的を達成するために、國學院大學学生支援を中心とする「育成事業」、講座・講演会・コンサート等の「講座・講演会事業」、社会貢献を目的とする「会館施設提供事業」、その他同窓会組織としての根本である「同窓会事業」、さらに活動の拠点である「院友会館」の運営も行っております。
卒業され、院友となられた皆さんのお手元には、年３回、同窓会報である『院友会報』をお送りします。卒業生の活動、母校や学生の活躍、支部の様子などを掲載しております。また、ホームページやツイッターも公開しており、情報発信をしております。是非ご覧ください。
これからは卒業生としてともに母校を応援して行きましょう！

院友会館って？

私ども同窓会活動の拠点となる「院友会館」は、母校渋谷キャンパスの百二十周年記念一号館と国際交流センターに隣接しております。
院友（卒業生）からの募金を主体として昭和七年現在の地に完成の旧会館から、昭和六十二年に改築した二代目の会館です。地上四階地下一階の会館は、静かで落ち着きのある空間です。
会館内は一階に『一般財団法人國學院大學院友会』の事務室・瀟洒なロビー。四階に四十八畳の和室と多目的で利用できる和室が三部屋。三階は大会議室と本格的なお茶室そして二十四畳の和室。二階に小会議室と地下には、各種パーティが催せる大ホールがございます。
今後、仕事の関係での上京、旅行、同期会、ゼミ会、OB会等どうぞ院友会館をご利用ください。またいろいろな講座等開催しております。どうぞご参加ください。

院友会ホームページ

◎院友会館 利用料金表◎　※消費税込／単位:円／**平成31年２月１日現在**

	室名	9:00～12:00	13:00～17:00	18:00～21:00	終日
B１F	大ホール	21,600	32,400	43,200	86,400
２F	小会議室	16,200	21,600	21,600	43,200
３F	大会議室	18,360	27,000	27,000	59,400
	芳梅庵	21,600	21,600	21,600	43,200
	はまゆう	10,800	21,600	21,600	43,200
	ぼたん	10,800	21,600	21,600	43,200
	はまゆう・ぼたん	16,200	32,400	32,400	64,800
４F	ふじ	18,360	27,000	27,000	59,400
	さつき	18,360	27,000	27,000	59,400
	ふじ・さつき	21,600	32,400	43,200	86,400
	研修室	8,640	10,800	10,800	21,600
	きく・さくら・うめ	通常料金：1人で利用の場合　7,560／2人以上で利用の場合 1人 7,020 ※いずれも1日につき			
		メンバーズカード所有者：1人で利用の場合　6,480／2人以上で利用の場合 5,400 家族で利用の場合　院友本人 5,400／同伴1人につき 4,320 ※いずれも1日につき			

◎院友のお集まり、ご利用時に「本会発行のメンバーズカード」「母校発行の國學院カード」をご提示の場合、又は國學院大學学生の方は、割引等がございますのでお申し出ください。

「大規模災害学費減免制度」へ寄付金を
～学生支援として贈呈

平成三十一年一月二十六日（土）四時十五分、母校渋谷キャンパスを本会吉田茂穂会長が訪問。若木タワー四階の法人応接室において、赤井益久学長へ「大規模災害学費減免制度」での学生支援奨学寄付金として、二百万円の指定寄付の目録を手渡した。
この制度は修学が困難になった被災学生に対して、学費を減免することで学業を奨励し、支援することを目的としたもの。本会では平成二十三年度から指定寄付として贈呈をおこなっている。この日は五時から新年院友交歓会が開催される日であったが、会長からは後輩支援への深い思いが学長へ語られた。

おめでとうございます

表彰等のご連絡をいただきました。心からお祝い申し上げ、今後益々のご活躍をお祈りいたします。

◆叙勲
旭日双光章
石原眞一氏（いしはら・しんいち／79経）
◆当選
東庄町長（千葉県香取郡）
岩田利雄氏（いわた・としお／79史）
◆宮司就任
日光二荒山神社（日光市）
中麿輝美氏（なかまろ・てるみ／76神）
宮城縣護國神社（仙台市青葉区）
田中於莵彦氏（たなか・おとひこ／89神専攻）
静岡縣護國神社（静岡市葵区）
芦原久雄氏（あしはら・ひさお／90神）

※院友の叙勲・褒章等表彰について、本部まで情報をお寄せください。

いつまでもお元気で

この三月末日をもって、次の方々が定年で母校を退職されます。お元気で、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。
※（　）は、専任として奉職された年月日。敬称略。

教　員
●大和博幸・文学部教授（昭和四十六年五月一日）
●久野マリ子・文学部教授（昭和五十九年四月一日）
●新谷尚紀・文学部教授（平成二十二年四月一日）
●川合康三・文学部教授（特別専任）（平成二十七年十月一日）
●高塩博・法学部教授（平成三年四月一日）
●磯村早苗・法学部教授（平成九年四月一日）
●永森誠一・法学部教授（特別専任）（昭和五十四年四月一日）
●秦信行・経済学部教授（平成六年四月一日）
●岡田荘司・神道文化学部教授（昭和五十六年四月一日）
●大森俊夫・人間開発学部教授（昭和四十八年四月一日）
●上口孝文・人間開発学部教授（昭和六十年四月一日）
●加藤季夫・人間開発学部教授（昭和六十一年四月一日）
●新富康央・人間開発学部教授（平成十九年九月一日）
●筒石賢昭・人間開発学部教授（平成二十六年四月一日）
●池田行伸・人間開発学部教授（平成二十五年四月一日）
●溝越章・教育開発推進機構教授（特別専任）（平成二十九年四月一日）

職　員
●日野朗・総務部校友課主査（昭和五十一年四月一日）
●山口智子・学術メディアセンター事務部図書館事務課書記（文学部資料室）（昭和五十二年四月一日）

住所変更届・異動届のお願い

本会では、母校校友課と協力し、一人でも多くの院友の皆さまに情報発信をしていきたいと考えております。現在、住所が判明している全ての院友の皆さまに、院友会報をお送りしております。
結婚・転職・転居などにより、氏名・住所・勤務先などに変更がございましたら、本会または、母校校友課へお知らせください。ホームページからでも変更できます。
また、ご実家であっても、ご本人が居住されていない場合は、郵便局から差し戻されてまいりますので、必ず現住所をご連絡ください。
皆さまのお手元に郵便物が確実に届くように、ご協力の程お願い申し上げます。

國學院ふぉめえしょん

▼次期学長に針本正行文学部教授

針本正行次期学長

現学長の任期満了に伴い、昨年十二月十三日に開催された学校法人國學院大學理事会は、針本正行文学部教授を次期学長に選任した。任期は、今年四月一日から四年間。

※針本正行（はりもと・まさゆき）
昭和二十六年生まれ。六十七歳。四十九年國學院大學文学部文学科卒業、五十四年同大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学。平成八年國學院大學文学部助教授、十二年同教授、二十一年四月文学部長（平成二十五年三月まで）、二十一年四月学校法人國學院大學理事、國學院大學学長職務代理者（在任中）、二十三年四月國學院大學副学長（在任中）。
専門は、平安時代文学。博士（文学）。

▼長野県立科町との連携協定締結

昨年十一月十五日、学校法人國學院大學は長野県立科町と「立科町と学校法人國學院大學との相互連携及び協力に関する基本協定」および「ウガンダ共和国　陸上競技、中長距離種目選手及び関係者への宿泊所提供に関する覚書」を交わした。これにより来年の東京五輪・パラリンピックで、立科町をホストタウンとしているウガンダ共和国の陸上競技選手が、本学厚生寮「蓼科寮」に滞在し事前合宿を行うこととなる。なお本協定締結に際しては、ウガンダ政府公認コーディネーターを任命された奥龍将（119日文）・株式会社スマイリーアース代表取締役社長に尽力いただいた。

総合企画部広報課・記

坂口理事長（写真左）と立科町・米村匡人町長（写真右）

新年院友交歓会、過去最多の参加者で

平成最後となる恒例の新年院友交歓会が、一月二十六日(土)午後五時から、院友会館地下大ホールを会場に開催された。

この日の司会進行は、國學院大學アナウンス研究会の西彩音（日文3年）さんと小林美瑛（法2年）さん。明るく元気な進行で幕を開けた。佐藤美穂副会長が開会を宣言し、一同で国歌を斉唱。吉田茂穂会長が登壇し、新春の箱根駅伝快挙の喜びを述べるとともに、「亥は勇気の象徴、信念と決意をもってチャレンジする年でありたい」と挨拶を述べた。

引続き母校赤井益久学長が、同じく箱根駅伝について全国の院友からの喜びの声を披露し、選手たちを称えるとともに、「母校は健全に発展している」と今年の志願者状況などを披露し、「法人、大学全体が上昇するように」と祝辞を述べた。

ここで坂口吉一理事長、赤井学長、若木育成会加藤圭子会長、本会吉田会長が揃って前へ進み、明治神宮ご寄贈の樽酒を大きな掛け声で開くと、例年を越える参加者からは大きな拍手がおくられた。

坂口理事長の発声で一同乾杯。会場内には新春の笑い声があふれていった。

賑やかに歓談が続く中、恒例の「学術・スポーツ振興資金」対象団体への目録贈呈が行われた。今井亮副会長から、学術部門として赤井学長へ、スポーツ部門では、スキー部、卓球部、ソフトテニス部、硬式野球部、柔道部、陸上競技部とそれぞれ対象団体の代表者へ贈呈されると、会場内は掛け声と拍手でいっぱいとなった。この対象団体を代表して、スキー部の加藤主将と柔道部の島田主将が日ごろの感謝と目標や豊富を語り、決意を表した。

続いて陸上競技部が再度登壇すると、場内は更に掛け声が大きくなり、土方主将の御礼と感謝の後、前田監督が「次の箱根は3位以内が目標」と語ると、場内の熱気は一気に加速し、さらに大きな声援が投げかけられた。

熱気冷めやらぬうちに三遊亭遊吉師匠が登壇するといよいよお待ちかねの福引大会。今年もまた沢山の豪華な景品のご協賛に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。師匠の軽妙な進行に、一喜一憂しながら、参加者は次々と福を受け取っておりました。

この第一部の福引終了後には、異色の院友、この四月に講談師の真打となる田辺一乃（93文2／菊入和子）さんから真打披露のPRもあった。

この後、全員で國大小唄を唄い、校歌を斉唱。針本正行副会長の閉会の言葉で中締めとなり、第二部の福引大会へと移っていった。残った方々にも、大きな福が待っておりました。ご協賛に重ねて感謝申し上げます。なお、当日の参加者は百八十一名であった。

誠にありがとうございました

◆福引賞品ご協賛を頂いた方々
◎順不同
- 國學院大學様
- 國學院大學若木育成会様
- 國學院大學生活協同組合様
- 明治神宮様
- 鶴岡八幡宮様
- 日光東照宮 宮司 稲葉久雄様
- 東京大神宮 宮司 松山文彦様
- 寒川神社 宮司 利根康教様
- 甲斐國一宮 浅間神社 宮司 古屋真弘様
- 明治記念館様
- 大成建設㈱様
- グランドプリンスホテル新高輪様
- 協立管理㈱様
- ㈱つくば ヒルトップ様
- ㈱つくば 和様
- ㈱おうふう様
- ㈱産経新聞制作様
- レストラン赤坂クーポール青山店様
- 村上侑美枝様（推）
- ㈱トップコート　植松　正様（79期）
- 山崎　武様（68期）
- 佐藤豊子様（70期）
- 山本富彦様（76期）
- 中西三千代様（82期）
- 小河原盛男様（86期）
- 宮嶋　淳様（103・116期）

◆懇親会樽酒ご寄贈
- 明治神宮様

◆酒肴料を頂戴した方々
- 学校法人國學院大學理事長 坂口吉一様
- 國學院大學学長 赤井益久様
- 國學院大學久我山中学高等学校様
- 学校法人國學院大學栃木学園理事長 木村好成様
- 鶴岡八幡宮 宮司 吉田茂穂様
- 明治神宮 宮司 中島精太郎様
- 中目黒八幡神社 宮司 岡部定征様
- 東京大神宮 宮司 松山文彦様
- 上総國一之宮 玉前神社 宮司 栗原崇次様
- 掛場直勝様（73期）

國學院大學人間開発学部・開設10周年記念・名入りステンレスボトルを15名様にプレゼント!!

毎号おこなっている「プレゼント企画」、今回は國學院大學人間開発学部から「学部名入・真空ステンレスボトル」（容量220ml／保冷保温対応）のご協賛をいただきました。これは昨年、開設10周年を迎えた同学部が11月に記念祝賀会を開催し、その際、記念品としてお配りしたものです。

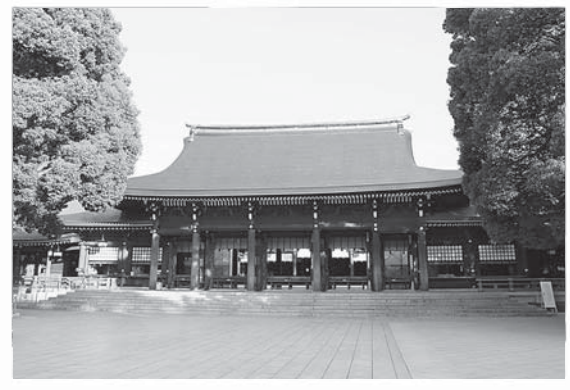
今回はこれを15名のみなさまへプレゼントいたします。ビジネス、お出かけの際にとっても便利です。奮ってご応募ください。

応募先	〒150-0011 東京都渋谷区東4-12-8 國學院大學院友会報プレゼント係
応募方法	ハガキ・FAX・E-mailのいずれかで郵便番号・住所・氏名・電話番号・卒業期・卒業学科を記入の上、お申込ください。
締め切り	平成31年4月20日（土）
当選発表	当選の発表は、賞品の発送を持って代えさせていただきます。発送は4月下旬以降になります。お楽しみに！

※お申し込みいただきました個人情報は、本会で適切に管理し、本会の事業を遂行するために利用させていただきます。

鶴岡八幡宮
宮司　吉田茂穂
権宮司　國生護衛
〒248-8588　鎌倉市雪ノ下2の1の31
電話　0467-22-0315
ホームページアドレス:www.hachimangu.or.jp
E-Mail:mail@hachimangu.or.jp

相模國一之宮
寒川神社
宮司　利根康教
神奈川県高座郡寒川町宮山3916
電話　0467-75-0004(代)
http://www.samukawajinjya.jp



明治神宮
名誉宮司　外山勝志
宮司　中島精太郎
権宮司　網谷道弘
権宮司　九條道成
権宮司　江馬潤一郎
〒151-8557　東京都渋谷区代々木神園町1-1
電話　03-3379-5511

國學院高等学校
校　長　津　田　　栄
教職員一同
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前2丁目2番3号
電　話　03−3403−2331(代)

國學院大學久我山中学高等学校
名誉校長　川　福　基　之
校　　長　今　井　寛　人
教職員一同
〒168-0082　東京都杉並区久我山1丁目9番1号
電　話　03-3334-1151(代)

神道大教
〒106-0031　東京都港区西麻布4−9−2
電　話　03−3407−0524
ＦＡＸ　03−3407−5655

上川神社
宮　司　柴　田　直　儀
〒078-8327　旭川市神楽岡公園2−1
電　話　0166−65−3151

樽前山神社
宮　司　永　井　承　邦
〒053-0035　苫小牧市高丘6番地49
電　話　0144−36−6661
ＦＡＸ　0144−36−6652

北海道神宮
宮　　司　吉　田　源　彦
〒064-8505　札幌市中央区宮ヶ丘474
電　話　011−611−0261

宮城県神社庁
庁　長　鍵　　三　夫
〒980-0014　仙台市青葉区本町1−9−8
電　話　022−222−6663

秋田県神社庁
庁　長　面　山　浩　康
副庁長　佐々木　宮　廣
副庁長　伊　藤　剛　雄
〒010-1427　秋田市仁井田新田2丁目15番26号
電　話　018−892−7932
ＦＡＸ　018−892−7793

笠間稲荷神社
宮　司　塙　　東　男

笠間稲荷美術館
館　長　塙　　東　男
〒309-1611　笠間市笠間1
電　話　0296−73−0001(代)
ＦＡＸ　0296−73−0002

宇都宮
二荒山神社
宮　司　阿　部　　憲
〒320-0026　栃木県宇都宮市馬場通り1−1−1
電　話　028−622−5271

さまざまなシーンに寄り添い続ける

明治記念館
Meiji Kinenkan

フォレスト テラス
明治神宮

〒107-8507 東京都港区元赤坂2-2-23　TEL. 03-3403-1171(大代表)
https://www.meijikinenkan.gr.jp/　#meijikinenkan

学校法人 **國學院大學栃木学園**
理事長　木村　好成　　事務局長　小藤　　清
〒328-8588　栃木市平井町608　電話　0282−22−5511

國學院大學栃木短期大学
学　長　中村　幸弘　　学　監　木村　好成

國學院大學栃木高等学校
校　　長　青木一男

國學院大學栃木中学校
校　　長　青木一男

國學院大學栃木二杉幼稚園
園　　長　栗原和子

第127期のみなさんへ
祝・ご卒業

ご卒業おめでとう
ございます
今後のご活躍を期待します

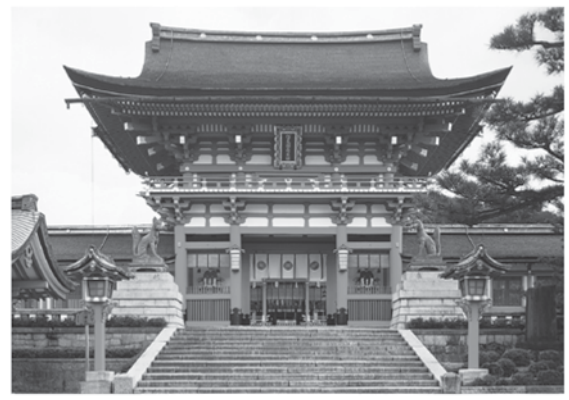
國學院大學若木育成会
会　長　加　藤　圭　子
副会長　今　村　充　伸
同　　堀　江　久　教
國學院大學　総務部　校友課内
電話　03−5466−0131

志波彦神社
鹽竈神社
宮　司　鍵　　三　夫
権宮司　野　口　次　郎
〒985-8510　塩竈市一森山1番1号
電　話　022−367−1611
URL http://www.shiogamajinja.jp/

月山神社 出羽神社 湯殿山神社
名誉宮司　緒　方　久　信
宮　　司　宮　野　直　生
権宮司　阿　部　良　一
〒997-0292　山形県鶴岡市羽黒町手向7
電　話　0235−62−2355

常磐神社
宮　　司　寺　内　義　與
〒310-0033　水戸市常磐町1−3−1
電　話　029−221−0748

伏見稲荷大社



宮　司　中　村　　陽
〒612-0882　京都市伏見区深草藪ノ内町68
電話　075−641−7331
http://inari.jp

神宮司庁
神宮大宮司　小　松　揮　世　久
神宮少宮司　亀　田　幸　弘
〒516-0023　伊勢市宇治館町1
電　話　0596−24−1111
ＦＡＸ　0596−27−0520

出雲大社
出雲國造
出雲大社宮司　千家　尊祐
〒699-0701　島根県出雲市大社町杵築東195

金刀比羅宮
宮　司　琴　陵　容　世
〒766-8501　香川県仲多度郡琴平町鎮座

院友神職会
会　長　松　山　文　彦
副会長　千　家　尊　祐
副会長　吉　田　茂　穂
事務局　〒151-8557
東京都渋谷区代々木神園町1−1
明治神宮社務所内
電　話　03-3379-5511(代)
ＦＡＸ　03-3379-5519

鹿島神宮
名誉宮司　上　野　貞　文
宮　　司　鹿　島　則　良
権宮司　東　　俊二郎
〒314-0031　茨城県鹿嶋市宮中2306−1
電　話　0299−82−1209(代)
ＦＡＸ　0299−82−1625

対象団体から…がんばります！

学術・スポーツ振興資金

学術部門

院友の皆さまの「学術・スポーツ振興資金」（学術部門・デジタルライブラリー）への支援につきまして、大変お世話になっております。本年度は「大嘗会供神膳秘説」・「大嘗会式画図」・「大嘗図（大嘗祭図）」・「大嘗会御記」・「大嘗会之記」・「大嘗会雑記」・「南都興福寺等文書」・「古今集遠鏡　巻十四（本居宣長稿本）」をデジタル化しました。三月中旬には公開されます。これらの史料の中では、大嘗祭関係の史料が注目されます。これらについては次回以降に順次紹介していく予定です。

昨年度デジタル化した史料のなかに、「仁孝天皇崩御之記　仁孝天皇御養母」と題した史料があります。その中に「弘化三年丙午三月四日仁孝天皇御葬送御列書」・「慶應三丁卯正月廿七日西剋大行天皇御葬送泉涌寺御行粧之記」の二点の史料が含まれています。

葬送の行列が、仁孝天皇崩御の際には公家を始めとする朝廷に属する者であるのに対し、孝明天皇崩御の際には、公家たちだけでなく武家も「武家方行列」として、征夷大将軍（徳川慶喜）・会津中将（松平容保）・桑名少将（松平定敬）・板倉侍従（板倉静勝）などの名が見えます。

学術メディアセンター事務部図書館事務課・記

仁孝天皇崩御之記　孝明天皇崩御之記　仁孝天皇御養母

スポーツ部門

陸上競技部

歴史を変える挑戦
～強さを証明し、更なる高みへ～

院友の皆さま方には、いつも多大なるご声援及び学術・スポーツ振興資金によるご支援を頂き、誠にありがとうございます。

新春一月二日、三日に行われました第九十五回東京箱根間往復大学駅伝競走大会では、テレビの前での温かいご声援、そして沿道まで駆けつけて下さった院友の方々のご声援が、走った選手だけでなく、チームの後押しになりました。心よりお礼申し上げます。結果は往路三位、復路十二位、総合七位と七年ぶりのシード権獲得、國學院大學過去最高順位・記録を達成することができました。

今年度は、「歴史を変える挑戦」というチームスローガンのもとスタートし、七種目での大学記録更新に加え、全日本大学駅伝初のシード権獲得、過去最高順位などチームとして大きく飛躍した一年となりました。

現在は、昨年に引き続き土方英和（健体三年）主将のもと「歴史を変える挑戦～強さを証明し、更なる高みへ～」というスローガンを掲げスタートしました。来年度は三大駅伝の出場が決まっていますので、そこで自分たちの強さを証明していけるよう、練習はもちろん普段の生活から一日一日を大事にし、日々精進して参ります。

新年度もご支援ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

監督　前田康弘・記

陸上競技部　主な予定

4月	14日(日)	桃の里マラソン	山梨県笛吹市
		焼津マラソン	静岡県焼津市
	未定	日本体育大学長距離競技会	日本体育大学健志台陸上競技場
5月	中旬(未定)	関東インカレ	国立競技場改修の為未定
	未定	日本体育大学長距離競技会	日本体育大学健志台陸上競技場
6月	未定	日本体育大学長距離競技会	日本体育大学健志台陸上競技場
7月	上旬	ホクレンディスタンスチャレンジ	北海道
	中旬	新入生歓迎会	
8月	上旬	夏季全体合宿	長野
	中旬～下旬	夏季選抜合宿	長野・北海道
9月	上旬	夏季選抜合宿	長野・北海道・山梨
	未定	日本体育大学長距離競技会	日本体育大学健志台陸上競技場
10月	未定	出雲駅伝	島根県出雲市
	未定	日本体育大学長距離競技会	日本体育大学健志台陸上競技場
11月	上旬	秋季合宿	千葉・伊豆大島
	未定	全日本大学駅伝	熱田神宮～伊勢神宮
	下旬	上尾シティーマラソン	埼玉県上尾市
	未定	日本体育大学長距離競技会	日本体育大学健志台陸上競技場
		甲佐10マイルロードレース	熊本・甲佐町
12月	未定	日本体育大学長距離競技会	日本体育大学健志台陸上競技場
2020年1月	2日(月)	箱根駅伝・往路	大手町～芦ノ湖
	3日(火)	箱根駅伝・復路	芦ノ湖～大手町
	中旬	都道県対抗駅伝	広島
	中旬	しぶやニュー駅伝	東京都・代々木公園
2月	上旬	神奈川マラソン	神奈川県横浜市
	上旬	丸亀ハーフ	香川県丸亀市
	上旬	冬季合宿	千葉・伊豆大島
	中旬	千葉クロカン	千葉
	中旬	福岡クロカン	福岡
3月	上旬	立川ハーフ	東京都立川市
	中旬	多摩川リバーサイド駅伝	神奈川県川崎市

陸上競技部　新入生一覧

No.	氏名	出身校	都道府県
1	阿久津佑介	那須拓陽	栃木
2	宮本　大生	つるぎ	徳島
3	川原　樹	北海道栄	北海道
4	藤本　竜	北海道栄	北海道
5	福田　将大	富山商業	富山
6	西田　琉唯	八千代松陰	千葉
7	伊野　一輝	拓大一	東京
8	西槇　優祐	学法石川	福島
9	坂本　健悟	藤沢翔陵	神奈川
10	川崎　康生	浜松工業	静岡
11	出浦　慎也	埼玉栄	埼玉
12	中西　唯翔	金沢龍谷	石川
13	中西　大翔	金沢龍谷	石川
14	永谷連太郎	美濃加茂	岐阜

硬式野球部

優勝を掴み取るために

院友の皆さま、学術・スポーツ振興資金を始め、いつも物心両面で暖かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

年末から年始にかけて、最も力を入れて強化してきたのはチーム内の人間関係の構築です。野球はチームスポーツですのでどんなに個人が素晴らしくても勝利につながっていきません。仮に勝てたとしてもそれは短期的な話で、一部リーグで勝ち続けることができる常勝軍団になることはできません。

まずは同学年の人間関係を作り、そして縦の学年の関係も通じ合える人間関係を構築し、戦いの場に立ち向かわなければなりません。それが学生スポーツのあるべき姿ではないでしょうか。何度も学生達と話し合い、何度も学生同士で話し合いをさせました。学生達は当事者意識を持って取り組んでくれました。心が充実し、イキイキとした表情で毎日の生活と野球に取り組む姿が見えてきております。

学生スポーツにおいて、どういうプロセスで優勝という栄光を勝ち獲るのか。自信と誇りを持てる取り組み方をすることは絶対条件です。『育てながら勝つ』ことが國學院大學らしい姿です。その上で、何としてでも現状から一歩前へ進むしかありません。ひと冬どのチームよりも練習をし、『個』も鍛えて参りました。箱根駅伝でシード権を獲得した陸上競技部に続き神宮球場で躍動します。掴み取るべきものは優勝しかありません。

今年も一年、ご支援ご声援をよろしくお願いいたします。

監督　鳥山泰孝（106法）記

新年・グラウンド開き

硬式野球部　新入生一覧

ポジション	出身高校	氏名
投手	聖望学園高校	坂本　颯太
投手	宮崎学園高校	源　隆馬
投手	天理高校	江原　雅裕
投手	明石商業高校	福谷　航太
投手	京都府立乙訓高校	富山　太樹
投手	旭川大学高校	楠茂　将太
投手	大東学園高校	忠井滉太朗
投手	浪速高校	田中　千春
投手	大分商業高校	古江　空知
捕手	太田市立太田高校	山村　航大
捕手	佐久長聖高校	鈴木　大河
1塁手	日本航空石川高校	小板慎之助
2塁手	國學院久我山高校	原　進一朗
3塁手	横浜高校	山﨑　拳登
3塁手	日大豊山高校	西村　達貴
遊撃手	関東第一高校	宮田　蒼太
遊撃手	熊本工業高校	綾　晃平
遊撃手	大分商業高校	森下　颯太
外野手	常磐大学高校	竹川　大稀
外野手	大手前高松高校	山本　大輔
外野手	大阪桐蔭高校	宮脇　大地
外野手	國學院栃木高校	青木　寿修
ﾏﾈｰｼﾞｬｰ	國學院栃木高校	菊池進一朗

── 平成31年度　東都大学野球春季リーグ戦（Ⅰ部／神宮球場）──

第1試合 11：00～		第2試合14：00～		第3試合17：00～	
4月 8日(月)	立正大	**國學院大**	駒澤大	亜細亜大	東洋大
4月 9日(火)	亜細亜大	駒澤大	中央大	東洋大	**國學院大**
4月16日(火)	駒澤大	中央大	立正大	亜細亜大	東洋大
4月19日(金)	亜細亜大	立正大	**國學院大**	東洋大	中央大
4月30日(火)	亜細亜大	**國學院大**	駒澤大	東洋大	立正大
5月 1日(水)	東洋大	駒澤大	中央大	立正大	**國學院大**
5月 9日(木)	亜細亜大	中央大	立正大	東洋大	駒澤大
5月10日(金)	東洋大	立正大	**國學院大**	駒澤大	中央大
5月21日(火)	立正大	駒澤大	**國學院大**	中央大	東洋大
5月22日(水)	中央大	**國學院大**	亜細亜大	東洋大	駒澤大

【注意】　このリーグ戦から、1日3試合制が導入されております。それに伴い、雨天順延や3回戦等の予備日が変則になっている週もありますのでご注意ください。詳細は、硬式野球部・東都大学野球連盟のホームページ等でご確認をお願いいたします。

柔道部

更なる高みを目指して

院友の皆さま、日頃より柔道部にご支援ご声援をたまわり、感謝申し上げます。

昨年の柔道部は、個人戦において、川上智弘（120法）コーチ以来となる全日本ジュニアチャンピオンを輩出でき、世界ジュニア大会においても銅メダル獲得、全日本学生体重別選手権大会2位、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会3位と東京、パリオリンピックに向け期待の持てる選手が数名頭角を現してきました。

団体戦においても関西の雄である天理大学を破り、王者東海大学と3対3の代表戦の末、僅差で破れベスト8でした。何が何でも相手を倒してやる前向きな気持ちの強さが不足していました。大会を終えて選手選考、大会までの練習の取り組み、大会前のコンディション作り等々で何が不足していたのかを全員で検証ミーティングし新チーム始動となりました。

例年より早めの幹部交代にも理由があります。近年、我が部には、意識の高い選手が年々増えてきております。「類が友を呼ぶ」という言葉があるように、私の思い描く選手層が出来上がってきました。これに新入生を迎えた「新生國學院大學柔道部」の活躍を、応援してくださる皆さまに約束し、更なる高みを目指します。

今年度も応援宜しくお願いします。

監督　坂本大記（106文）記

柔道部　新入生一覧（予定）

No.	氏名	高校名	階級	身長	学科
1	宮本研アレクサンドル	小杉（富山）	90	182	人間開発学部
2	川田　武史	足立学園（東京）	73	168	経済学部（経済）
3	藤井　隆也	札幌山の手（北海道）	100	180	文学部（日文）
4	井上　泰司	木更津（千葉）	73	173	人間開発学部
5	平山　隆博	柳ヶ浦（大分）	100超	175	神道文化学部
6	瀬戸　裕貴	仙台育英（宮城）	100	173	法学部（法律）
7	谷内竜太郎	東海大学相模（神奈川）	81	172	文学部（史）
8	押領司龍星	足立学園（東京）	81	175	経済学部（経営）
9	樋口誠二郎	足立学園（東京）	60	160	法学部（法律）

柔道部　主な予定

月	日	大会・合宿名	場所
4	6～7	全日本柔道選抜体重別選手権大会	福岡国際センター
6	22～23	全日本学生柔道優勝大会（団体）	日本武道館
7	4～8	第30回夏季ユニバーシアード大会	イタリア・ナポリ
9	14～15	全日本ジュニア体重別選手権大会	埼玉県立武道館
	28～29	全日本学生柔道体重別選手権大会（個人）	秋田県立武道館
10	16～20	世界ジュニア大会	モロッコ
	19～20	全日本学生体重別団体優勝大会（兵庫県）	ベイコム総合体育館
11	2～3	講道館杯全日本体重別選手権大会（千葉県）	千葉ポートアリーナ
	22～24	グランドスラム大阪	大阪市体育館
12	22（予定）	第33回松尾三郎杯	たまプラーザキャンパス

応援します！学術・スポーツ振興資金

谷（たに）　浩行（ひろゆき）
（92法／那賀町立木頭小・中学校校長）

頑張れ國學院

昭和五十五年四月、東急田園都市線二子新地駅の近くにアパートを借りて、私の大学生活が始まりました。すぐ近くにたまプラーザキャンパスがあるにもかかわらず、私の履修した授業は八王子キャンパスでありました。溝の口から立川へ南武線で北上したことが懐かしく思い出されます。私は現在小中一貫校に勤めておりますが、たまプラーザの人間開発学部で学んだ後輩の皆さまと一緒に勤めることができればと楽しみにしています。

さて、卒業して三十五年、やはりいつまで経っても母校の文化学術面やスポーツ面の動向は気になるものです。スポーツ面では近年陸上競技部と硬式野球部の活躍は特に意識していなくても耳目に入ってきます。今年の箱根駅伝では総合成績がこれまで最高の七位となり、七年ぶりのシード権を獲得したことは本当に喜ばしい限りです。陸上競技部をはじめとして、國學院各運動部の活躍に期待したいと思います。

そして、とりわけうれしいニュースは今春の甲子園に二十一世紀枠で私の母校、徳島の富岡西高校が創部百二十年目にして初出場することです。國學院と何の関係がと思われたことでしょうが、監督の小川浩先生（91文）は國學院大學硬式野球部のご出身です。母校の富岡西高校を率いて通算十二年目、監督生活三十三年目で初の甲子園への切符を手にされました。皆さん、春の甲子園にもご注目ください。

國大生、院友の皆さまのご活躍を心からお祈りいたします。

学術・スポーツ振興資金累計表

▶平成29年度末積立金残高（3月31日現在）	9,848,818円
▶H30・4/1～10/31（304件）	1,567,091円
▶H30・11/1～H31・1/31（162件）	796,621円
▶本年度贈呈分（学術部門　スポーツ部門）	-3,100,000円
現在高	**9,112,530円**

ご協力ありがとうございました

◆今後の支援にむけて、本年度も更なるご協力をお願いいたします。

ご声援ありがとうございました

國學院大學駅伝応援の会
会長　坂本眞佐人（81経）

陸上競技部の３年連続12回目の箱根駅伝出場に際し、全国の多くの方から応援支援金を頂戴しました。誠にありがたく心より御礼申しあげます。

前田康弘監督の公約どおり、「攻めの往路、ねばりの復路」で大学過去最高順位の総合第７位、シード権を見事奪還しました。

第５区、元箱根の応援ポイントでは力強く山を登ってきた浦野選手が応援団に感動を届けてくれました。翌日、第６区では江島選手が幟を振っての応援に手を挙げて応えてくれました。

皆さまの懸命の応援が今回の成績に繋がりました。学生の皆さんの熱い応援は周囲を盛り上げてくれました。

沿道で、テレビの前で選手の背中を押し続けてくださいました全国の大学関係者、院友、若木育成会、学生の皆さまには本当にありがとうございました。

國學院大學は大森俊夫部長が総監督時代の第77回箱根駅伝に初出場以来、駅伝の常連校となりました。監督就任10年、前田監督の指導の下、常に注目される強豪校となり学生三大駅伝に出場します。

さらに上位を目指し、新たな「歴史を変える挑戦」に挑む陸上競技部を「オール國學院」で一丸となり応援してまいりましょう。今後もご支援のほどよろしくお願い申しあげます。

駅伝応援の会からのご報告

第95回箱根駅伝の出場に際しまして、今回も多くの皆さまにお力添えをいただきました。厚く御礼申し上げます。

今回、支援金は総額875万円のお力添えを頂戴いたしました。これは、陸上競技部の支援を始め、必要な応援活動のために使用させていただきました。

ご協力いただきました皆さまには、改めまして決算等のご報告をいたします。誠にありがとうございました。

ソフトテニス部

新2・3年生への期待

院友の皆さまには、いつもご声援とご支援をたまわり、心より御礼申し上げます。

心地よい春風の中、今シーズンがスタートし、男子二十六名、女子八名の部員が一丸となっています。この春、男子は関東リーグ1部リーグ8シーズン目を迎えます。平成二十七年春季リーグでの1部昇格以降関東リーグ加盟校65校の10部の中の最高峰で戦い続け、最高成績第3位2回を数え、昨年秋はインカレ優勝校を破る実力を発揮しました。

一昨年秋に2部リーグに昇格した女子は、昨年の秋季リーグで第2位の成績を残し、1部が目前となっています。さらに、本年度は男女とも東日本学生、インカレでの大学対抗ベスト8以上、ダブルス、シングルスでの上位を目標としています。新年度の戦いは、男女とも昨年までのチーム体勢からそれぞれ、一名の主力が抜けたのみで、特に新2・3年生の戦いぶりに大いに期待を寄せ、若い力の躍動を期待しています。

日ごろの練習で精神力及び技術力をしっかり積み重ね、勝敗を決する厳しい局面で臆することがないよう、総力で本番に向かってまいります。

皆さまには、なお一層のご声援ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

監督　小杉　誠（86法）記

豪快なストロークを打つ：小出尚典（史2年）君、ペア：佐藤勇乃介（経3年）君

ソフトテニス部　新入生一覧

氏名	出身校	ポジション
下田　好輝	健大高崎高校	後衛
亀井龍之介	鹿児島高校	後衛
倉品　　樹	前橋商業高校	後衛
齋藤　亜夢	東北高校	後衛
岡崎　聡太	三重高校	前衛
久米　夏子	川崎橘高校	後衛
木村　美月	北越高校	前衛

ソフトテニス部　主な大会日程　平成31年２月11日現在

月	日	大会名	会場
4	7	関東オープン大会(男子)	千葉県千葉市
	〃	首都学生春季リーグ戦(女子)	東京経済大学G
	14	全日本クラブ対抗	静岡県静岡市
	〃	関東オープン大会(女子)	埼玉県狭山市
	21	関東オープン大会(男子勝残り)	東京都江戸川区谷河内
	28	首都学生春季リーグ戦(男子)	國學院大學淵野辺G
5	11～12	関東学生春季リーグ戦	千葉県白子町
	13	関東学生シングルス選手権大会	千葉県白子町
	14～15	関東学生ダブルス選手権大会	千葉県白子町
	18・19	全日本シングルス選手権大会	長崎県長崎市
	25～26	関東選手権大会	千葉県白子町
6	29・30	東日本大学対抗選手権大会	千葉県白子町
7	1	東日本学生シングルス選手権大会	千葉県白子町
	2～3	東日本学生ダブルス選手権大会	千葉県白子町
	20～21	東日本選手権大会	静岡県静岡市・浜松市
8	6・7	全日本大学対抗選手権大会	岩手県盛岡市・北上市
	8・9	全日本学生ダブルス選手権大会	岩手県盛岡市・北上市
	9・10	全日本学生シングルス選手権大会	岩手県盛岡市・北上市
9	9・10	首都学生秋季リーグ戦	千葉県白子町
	10・11	首都学生ダブルス選手権大会	千葉県白子町
10	1・2	第７４回国民体育大会茨城国体	茨城県北茨城市
	12～13	関東学生秋季リーグ戦	千葉県白子町
	18～20	第７４回天皇杯・皇后杯	岩手県北上市
11	未定	関東学生新進大会	早大G他
	未定	関東学生大学対抗戦	早大G他
12	未定	関東学生選抜インドア(室内)大会	神奈川県小田原市

卓球部

負けない戦いへの挑戦

平素より、院友の皆さまから多大なるご支援とご声援を頂戴しておりますこと、厚く御礼申し上げます。

昨年度は、強化部会に選定いただいて十年となる節目の年でありました。振り返ると、嬉しさと悔しさが入り混じる一年であったと思います。全日本大学総合卓球選手権・団体の部では、女子として創部初となるベスト8、国民体育大会（福井しあわせ元気国体）では、平成二十九年度卒業の宇仁田啓市君（126日文／百五銀行）の三重県が成年男子で3位と、目標としている「全国大会入賞」を達成することができました。その一方で、関東学生卓球リーグ戦では、男子は1部昇格を果たすことができず、春季に好調であった女子も秋季は最下位に終わり、2部降格という結果となりました。

今年度は、男女とも関東学生卓球リーグ戦の2部からスタートします。男子主将の関有貴（法4年）、女子主将の近藤未来（初教4年）を中心に、「勝ちたい」ではなく、「負けない」戦いができるよう、努力を重ねていく所存です。

今年度も國學院大學で卓球に取り組ませていただくことに感謝しながら、自らの責任と役割をしっかりと果たしていきます。引き続き、変わらぬご支援ご声援をたまわりますよう、何卒お願い申し上げます。

監督　人見　剛（102経）記

卓球部　新入生一覧

氏名	出身校
相沢　龍士	埼玉・埼玉栄高
村上　達哉	長野・松商学園高
吉田　大流	千葉・千葉経済大学附属高
小畑　美菜	神奈川・横浜隼人高
高橋　沙希	福島・桜の聖母高

平成31年度の大会、行事予定

月	日	予定
4	6	関東高体連強化事業(中央大)
	7	立川オープン(立川市)
	28	新入生歓迎会(たまプラーザ)
5	3～4	新人戦(座間市)
	10～12	リーグ戦【２部】(所沢市)
6	15	東京新人・一般(稲城市)
	下旬	関東学生
7	4～7	全日本大学総合・団体(豊田市)
8	6～7	全日学予選(世田谷区)
	18～22	夏合宿(長野市)
	22～23	チームカップ(世田谷区)
	未定	大阪商業大学定期戦(たまプラーザ)
9	4～5	リーグ戦【１部】(港区)
	12～13	リーグ戦【１・２部】(所沢市)
		他１日
	20～21	リーグ戦【１部】(港区)

公益目的事業を実施（本部開催）

ー第23回サロンコンサートー　クリスマスにジャズを

通算で第23回を数える平成三十年度のサロンコンサートの第2回目は、十二月一日（土）に院友会館において開催された。「ちょっと早いクリスマスプレゼント～優雅なひとときをおとどけします」と銘打っての開催に、百四十名の方々が来館。クラリネットを中心に、ピアノ、ベース、ボーカルの編成で、「鈴懸の径」や「ムーンライト・セレナーデ」、「慕情」など懐かしいナンバーが演奏された。近隣の方々のみならず、山梨、千葉、埼玉からの常連さんも多く、来館者は師走の午後のひとときを満喫していた。コンサートは年三回、院友会館の一階ロビーで開催される。入場無料。皆さまも是非足をお運びください。

「新社会人キャリア講座」～社会へ出る学生を応援～

本会の育成事業として実施してきたこのキャリア講座、本年度はマナー編を平成三十一年一月九日（水）に院友会館で、ライフプラン・法律編を同十六日（水）、母校百三十周年記念5号館5301番教室において開催した。新たに社会人となる学生達へ、必要なマナーや労働法の基礎知識等を学んでもらおうというもので、母校共催の事業で、キャリアサポート課との連携でおこなわれた。

マナー編は十七名の参加で、村上侑美枝（本会正会員）氏が講師（写真）。法律編は二十名の参加で巴田梨（キャリア・コンサルタント）氏を講師として、両日とも参加者は熱心に学んでいた。

國學院の古典、第22回目を開催

新春の恒例となっている本会共催・國學院大學後援の公開講座、『國學院の古典』が、平成三十一年一月二十一日(月)から二十五日(金)までの五日間、院友会館三階大会議室を会場に開催された。本会の協力団体である、國學院大學で学位をとられた先生方の会、院友学術振興会が主催し、今回が22回となる。源氏物語、万葉集、古事記、中国文学から、国語学、神道学、国学、と他の講座では見られない内容もあり、その幅広い構成に今年はのべ約六百七十名の参加者がありました。講座は全五日間。一日2コマの10講座で、受講料は一日千円。

明年度も新春に開催の予定です。

スキー部

インカレ一部復帰!!

院友の皆さま方には日頃より多大なるご支援、ご声援をたまわりまして誠にありがとうございます。

今シーズンのインカレ（第92回全日本学生スキー選手権大会）は二月十九日～二月二十三日の間、長野県野沢温泉にて開催されます。この会報が皆さまのお手元に届くころにはこのインカレの結果が出ていますが、残念ながら原稿の締め切りの関係で結果をお伝えすることが出来ません。

現在、アルペン部隊はインカレの変則開催日程のスーパージャイアントスラローム競技（一月二十九日～一月三十日）に参加すべく秋田県・田沢湖にて合宿中です。ランナーは二月二日から長野県・白馬村にてインカレに向けての最終調整合宿を行います。

昨年インカレ2部総合3位と、1部昇格を辛くも逃した苦い経験を活かし、部員一同1部復帰を目指します。また、来年度は四名の新人が入部いたします。少数精鋭のスキー部ですが、目標は1部へ復帰と定着が最大目標であります。

今後とも皆さま方のより一層のご声援、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。

監督　坂入択司（89哲）記

4年キャプテン・加藤豪のスケーティング

スキー部　新入生一覧

氏名	出身校	種目
北林　　凌	長野県・白馬高校	アルペン
佐藤　創太	長野県・飯山高校	アルペン
樋沢　駿甫	岩手県・盛岡中央高校	アルペン
林　　結翔	新潟県・小出高校	ランナー

スキー部　主な活動予定

月	予定
5月	雪上合宿(アルペン・ランナー・ジャンプ合同合宿)
8月	夏合宿（白馬）7日間
9月	秋合宿（嬬恋、妙高）
10月	夏季インカレ(陸上)
11月	冬合宿（ランナー・北海道、アルペン・長野県）
2020年2月	第93回全日本学生スキー選手権大会（秋田県・鹿角市）

@inyuukai

院友会ではツイッターで情報発信をしています。催し物、コンサートや各種講座等様々な情報を発信していますので、是非ご利用ください。

会費等納入者芳名

ありがとうございました

平成三十年十一月一日～平成三十一年一月三十一日納入分まで。

名前上の数字は卒業期。「推」は理事会承認の会員。「特」は会員とはなっていないがご賛同くださった方。（敬称略）

皆さまからお納めいただいた会費・寄付金は同窓会事業や左記公益事業等に使用いたします。

★公益事業
●育成事業（在学生等への支援）
●講座講演会事業
●会館施設の提供事業

皆さまのご協力をお願いいたします。

〈年度会費〉

87 土佐谷 惇
87 髙本 邦春
87 原 政和
85 嘉手苅 孝
85 岡田 敏文
85 荒井 修
85 勝又 嘉
85 秋津 良福
84 山田 廣光
84 木下 智
84 内海 孝博
84 岡田 守
83 渡邉 博明
83 大庭 敏彦
82 大川 克公
82 福森 洋一
81 森田 律子
79 村上 明夫
79 牧野 節和
79 藤井 良一
78 明城 正司
78 大宮 弥宗
78 大島 文弘
78 池田 行雄
77 森脇 泰子
76 田村 加代子
76 小嶋 隆雄
76 内海 英樹
73 秋元 信英
73 高橋 朝男
72 勝又 長見
72 小池 力
71 山平 公一
69 高野 明
68 近藤 基
68 桑原 正章
68 岡崎 宗嗣
65 水口 清巧
65 浅井 和人
60 大田原 盛
56 佐野 金夫
55 伊藤 邦彦
三千円
94 岩佐 弘史
93 海野 修
93 河村 貞代
93 大鳥居 素
92 佐野 光博
92 植松 秀充
90 植松 英生
89 石井 昌明
87 野口 芳照
87 土佐谷 秀子
〔茨城県支部経由〕
三千円
104 平賀 裕貴
100 芦川 和昭
〔静岡県支部経由〕
三千円
73 鈴野 笠子
〔静岡県中部支部経由〕
白川のり子
〔静岡県東部支部経由〕
三千円
72 高橋 朝男
72 勝又 長見
71 中平 公一
69 近藤 基
68 桑原 正章
68 岡崎 宗嗣
65 水口 清巧
65 浅井 和人
60 大田原 盛
56 佐野 金夫
55 伊藤 邦彦
三千円
94 稲葉 徹也
94 坂本 正美
94 鈴木 成一
94 新潟県支部経由
94 岩佐 弘史
93 小宮 和江
93 海野 修
93 大鳥居 素
92 佐野 光博
92 植松 秀充
90 植松 英生
89 石井 昌明
87 土佐谷 秀子
〔静岡県中部支部経由〕
78 酒井 正道
76 青島 健昭
75 鶴岡 賢司
74 瀧本 純一郎
72 森 濱岡 弘一
72 髙橋 充
71 青木 泰
71 内山 信
68 篠原 亘
67 高橋 博
63 鶴見 敏夫
53 三千円 朝倉 太郎
126 長谷 優一
125 健山 二
124 五明 健治
123 松岡 大照
122 石垣 絵美
122 山下 弘一
121 井出 貴文
120 細江 貴裕
119 大村 英樹
117 池田 幸司
116 敦賀 愛子
114 鈴木 雅也
113 土佐谷 允
112 岩倉 正次
109 上岡 勝文
108 渡邊 龍一
107 谷野 朗
105 望月 英
103 千江 大輔
103 清水 和巧
102 矢田部 盛
101 鳳野 和人
100 雨宮 盛
99 伊藤 久美
98 沈 恵美
95 前田 篤
95 奥村 徹也
94 稲葉 健輔
94 佐谷 正美
93 和江 隆
92 佐野 光博
92 植松 秀充
90 植松 英生
89 石井 昌明
87 土佐谷 秀子
123 狭間 敏
122 苦竹 紗代
121 伊藤 貴彦
119 藤井 貴彦
118 海野 貴嗣
117 宮城島 貴
116 国正 直史
116 戸塚 真史
116 大越 沙織
115 小谷 彩
115 河合 修子
115 黒澤 理隆
113 白山 啓吳
113 齋藤 康彦
109 髙橋 聖
108 瀬本 一
104 大保 良子
104 大森 信宏
103 川村 信宏
103 宮崎 哲也
103 浅井 継
101 小野 明史
99 河合 修子
97 黒澤 理隆
95 鈴木 啓吳
94 白山 啓吳
93 八木 尚弘
93 朝比奈 啓
92 村瀬 隆彦
90 岡村 渉
89 仁科 久雄
88 矩岡 恭彦
88 小泉 秦彦
88 河原崎 住雄
86 繁原 昌志
84 有馬 幸司
83 桜井 松司
83 輪 東朗
80 水野 八束
79 天野 正之
78 松下 正道
78 瀬本 隆美
78 繁原 央
70 山崎 厚生
70 松村 進
70 鈴木 強
70 川端 寛
70 水島 清一郎
69 聞部 泰一
69 髙石 禎司
69 川合 以彦
69 今井 晃
69 堀口 裕
68 菅原 登世
68 奈良原 岩久
68 長谷川 裕
68 二瓶 裕
68 岩本 寿弘
67 島津 貴美子
67 河嶋 正樹
67 片寄 寿美子
67 伊藤 善吾
67 伊藤 孝
67 新見 隆司
67 松田 網
66 松川 裕
66 高橋 猛
66 木戸 浩志
65 三木 一弘
65 鈴木 亀
65 藤山 昭吉
65 時枝 清
65 高橋 清子
65 杉山 道明
65 恩田 正郎
65 大山 聰
64 陽間 和夫
64 西 義一郎
64 皿海 左貴子
63 堤 三郎
61 野上 整也
61 小林 宏人
60 新井 國雄
57 亀井 恵男
56 朝倉 子
54 三千円 我 一恒
123 狭間 敏
122 苦竹 紗代
121 伊藤 貴彦
119 藤井 貴彦
118 海野 貴嗣
117 宮城島 貴
116 国正 直史
116 戸塚 真史
116 大越 沙織
115 小谷 彩
115 河合 修子
115 黒澤 理隆
113 白山 啓吳
113 齋藤 康彦
109 髙橋 聖
108 瀬本 一
104 大保 良子
104 大森 信宏
103 川村 信宏
103 宮崎 哲也
103 浅井 継
101 小野 明史
99 河合 修子
97 黒澤 理隆
95 鈴木 啓吳
94 白山 啓吳
93 八木 尚弘
93 朝比奈 啓
92 村瀬 隆彦
90 岡村 渉
89 仁科 久雄
88 矩岡 恭彦
88 小泉 秦彦
88 河原崎 住雄
86 繁原 昌志
84 有馬 幸司
83 桜井 松司
83 輪 東朗
80 水野 八束
79 天野 正之
78 松下 正道
78 瀬本 隆美
78 繁原 央
70 山崎 厚生
70 松村 進
70 鈴木 強
70 川端 寛
70 水島 清一郎
69 聞部 泰一
69 髙石 禎司
69 川合 以彦
69 今井 晃
69 堀口 裕
68 菅原 登世
68 奈良原 岩久
68 長谷川 裕
68 二瓶 裕
68 岩本 寿弘
67 島津 貴美子
67 河嶋 正樹
67 片寄 寿美子
67 伊藤 善吾
67 伊藤 孝
67 新見 隆司
67 松田 網
66 松川 裕
66 高橋 猛
66 木戸 浩志
65 三木 一弘
65 鈴木 亀
65 藤山 昭吉
65 時枝 清
65 高橋 清子
65 杉山 道明
65 恩田 正郎
65 大山 聰
64 陽間 和夫
64 西 義一郎
64 皿海 左貴子
63 堤 三郎
61 野上 整也
61 小林 宏人
60 新井 國雄
57 亀井 恵男
56 朝倉 子
54 三千円 我 一恒
86 森田 輝雄
85 伯耆原 敏男
85 佐々木 康之
85 石橋 栄
84 森 敏明
84 上野 三郎
83 米原 慧仁
83 船橋 孝雄
83 平沢 孝雄
83 櫻井 健一
82 馬渡 專子
82 村山 良幸
82 笹部 專子
82 近藤 美子
82 杉崎 勝代
81 牧野 裕志
81 平田 貴敏
81 新野 博子
81 金沢 悦子
81 小野 貴嗣
81 恭代 仁
81 伊藤 康
80 渡辺 雅夫
80 鐵田 義昭
80 山根 良功
79 平田 琴子
79 西田 政二郎
79 中川 健一
79 柴田 美智子
79 新井 保夫
78 安部 孝次郎
78 矢島 輝一
78 松本 美智子
78 外山 敏茂
78 戸澤 明夫
78 上田 和子
78 北村 喜八郎
77 今泉 泰之
77 箕輪 勝也
77 志賀 吉夫
77 黒川 正邦
77 菊地 則子
77 菅野 俊勝
77 粕谷 茂義
77 印藤 ひろつぐ
77 紅谷 義信
76 飯森 隆年
76 野口 和茂
75 野本 房幸
75 高橋 勢津子
75 佐藤 正
75 香川 純一
75 岩戸 哲夫
75 相田 治子
74 守谷 武之
74 花松 一
74 補 忠義
74 野口 和茂
74 村中 滋男
74 木村 宇佐美
73 有良 翔
73 永田 武
73 懐家 敏
73 砂川 政
73 岡本 正毅
73 井上 紘之
73 横沢 隆之
72 沼田 美津江
72 長賀 我部
72 佐藤 正
72 塩田 豊一
72 小野田 敦子
72 大平 市
72 髙口 希輝
71 篠塚 孝二
71 小澤 吾
71 沖本 美生
71 大谷 滿
86 森田 輝雄
85 伯耆原 敏男
85 佐々木 康之
85 石橋 栄
84 森 敏明
84 上野 三郎
83 米原 慧仁
83 船橋 孝雄
83 平沢 孝雄
83 櫻井 健一
82 馬渡 專子
82 村山 良幸
82 笹部 專子
82 近藤 美子
82 杉崎 勝代
81 牧野 裕志
81 平田 貴敏
81 新野 博子
81 金沢 悦子
81 小野 貴嗣
81 恭代 仁
81 伊藤 康
80 渡辺 雅夫
80 鐵田 義昭
80 山根 良功
79 平田 琴子
79 西田 政二郎
79 中川 健一
79 柴田 美智子
79 新井 保夫
78 安部 孝次郎
78 矢島 輝一
78 松本 美智子
78 外山 敏茂
78 戸澤 明夫
78 上田 和子
78 北村 喜八郎
77 今泉 泰之
77 箕輪 勝也
77 志賀 吉夫
77 黒川 正邦
77 菊地 則子
77 菅野 俊勝
77 粕谷 茂義
77 印藤 ひろつぐ
77 紅谷 義信
76 飯森 隆年
76 野口 和茂
75 野本 房幸
75 高橋 勢津子
75 佐藤 正
75 香川 純一
75 岩戸 哲夫
75 相田 治子
74 守谷 武之
74 花松 一
74 補 忠義
74 野口 和茂
74 村中 滋男
74 木村 宇佐美
73 有良 翔
73 永田 武
73 懐家 敏
73 砂川 政
73 岡本 正毅
73 井上 紘之
73 横沢 隆之
72 沼田 美津江
72 長賀 我部
72 佐藤 正
72 塩田 豊一
72 小野田 敦子
72 大平 市
72 髙口 希輝
71 篠塚 孝二
71 小澤 吾
71 沖本 美生
71 大谷 滿

〈十年会費〉

83 金光 あかり
83 小林 光子
83 大野 惠太
83 谷口 修
82 谷口 惠
82 田渕 善三
82 漆崎 惣章
81 平林 違司
80 永瀬 民志
80 鐵田 耕一
79 中村 直紀
78 中野 陽子
73 今井 文男
72 和田 淳
71 大塚 名
71 利彦
二万円
93 飯山 美都子
〔茨城県支部経由〕
二万円
93 大野 光子
92 高橋 惠
92 高幡 專子
91 長野 幸雄
91 徳田 嬉子
91 伊能 廚子
90 堀越 博子
90 賢一 悟
90 中村 芳雄
90 仲野 茂
89 伊藤 里美
89 高橋 克
89 相原 傅
88 石井 正美
88 浦 知子
87 橋本 專郎
87 高橋 ひろみ
86 河合 昭彦
84 松戸 稔
83 清水 利司
119 一千円 古瀬 智彦
126 北村 規子
125 田中 宏幸
124 東 正
123 関 翔一
122 千葉 朗
121 千葉 一
120 千葉 哲
119 鷲下 明紀
118 大野 勝
117 木村 紀
116 武井 貞宏
115 益本 博之
114 岡田 大輔
113 長瀬 雅
112 波平 慎一
111 加藤 卓也
110 和久井 桂
109 木村 正
108 武井 大志
107 長谷川 美穂
106 波平 慎一
105 上山 正
104 伊藤 聖明
103 堀江 重勇
102 遠藤 寛行
101 矢木 公久
100 小野 和文子
99 築地 敦子
98 三崎 理恵
97 南 幸裕
96 安部 悦子
95 鈴木 正雄
94 笹岡 泰志
93 鷹取 哲洋
92 取 ゆう子
91 倉持 文子
90 遠藤 千二
89 三浦 智子
88 村上 雅夫
116 西尾 原田 万左江
115 白井 政幸
115 丹羽 誠
114 築地 理
113 塩地 恵
112 三崎 幸裕
111 南 悦子
110 安部 正
109 鈴木 雄
108 鷹取 ゆう子
107 倉持 文雄
106 遠藤 智
105 匿 相馬 博文
104 三浦 永
103 武田 名
103 信之

〈維持寄付金〉

79 79 78 78 78 77 77 77 76 76 75 75 74 74 72 72 70 70 70 70 69 69 69 68 67 66 66 65 65 64 63 62 推 特 116 99 93 73 71 65 二万円 67 三万円 73 五万円
大橋 聞山 沼崎 知江子 高原 玄承 加藤 美登里 平田 美鈴 西野 茂 明 幸一郎 高梨 良男 藤崎 圀一郎 玉井 浩二 吉田 宣宏 湯浅 一則 宮川 清治 松村 進 友枝 昭世 清水 健 戸澤 傑 高石 務 菅原 みどり 河野 忠雄 松川 桜 鶴原 茂 杉山 悠子 根本 強 福山 八郎 テル 平山 子 片山 裕司 武井 大侑 大島 浩 掛谷 勝 米山 安一 赤木 正憲 伊藤 勉 岡 照章
83 千百二十円 名
126 岡崎 朋恵
126 両角 大輝
119 古瀬 智彦
115 久保 保子
115 勝又 啓
112 五十嵐 和子
109 文野 淳
105 和智 恵一
104 長井 光子
104 増子 孝
100 大林 友子
100 大野 定宏
98 原田 宏
98 関部 文太
97 内藤 健
96 高橋 信
95 倉持 吉子
95 柴田 宣
93 小林 透
93 原 治
92 谷 清治
92 高幡 雄一
92 望月 明
91 星野 之
91 東海林 栄郎
91 和久 一
91 小松 浩
91 小森谷 治
89 幸野 日
87 小野 珍
85 小野 目
84 遠藤 昭
83 栗原 正
82 中田 昌
81 三千代 昌
81 松本 賢
81 松澤 一
81 保坂 明
81 寺田 敏
80 柏木 章
80 星見 悟
80 小俣 裕
80 能崎 輔
116 西尾 原田 万左江
115 白井 政幸
115 丹羽 誠
114 築地 理
113 塩地 恵
112 三崎 幸裕
111 南 悦子
110 安部 正
109 鈴木 雄
108 鷹取 ゆう子
107 倉持 文雄
106 遠藤 智
105 匿 相馬 博文
104 三浦 永
103 武田 名
103 信之
76 74 74 74 74 73 72 72 70 70 70 68 67 66 65 63 推 五十円 六千円 79 79 八千円 116 105 95 匿 91 七千円 90 88 83 83 81 81 80 73 73 72 67 66 65 74 期 五十円 96 期 体育 連合 会 一万円 92 二万円 82 三万円 112 四万円 73 五万円 匿
遠藤 宏子
76 千家 哲彦
74 鈴木 美佐子
74 大場 統弘
74 有賀 伸夫
73 和田 文男
72 吉田 淳
70 島 宣子
70 武 智
70 清水 傑
68 千葉 健
67 河崎 博
66 水野 恭
66 岡崎 俊
63 杉山 博
63 羽生 信
推 笹田 弥生
五十円 小山 幸一
六千円 田 東夫
79 佐藤 和之
79 佐藤 栄郎
116 武井 大侑
105 御園 正麻
95 匿 名
94 川崎 浩一
92 尾崎 明
91 星野 治
90 菊池 健
88 込宮 浩
83 松野 久光
83 松本 光子
81 松本 俊明
81 柏木 繼行
80 世良 俊治
73 澤 洋文
73 澤登 都
72 菊池 雄
67 今野 一
66 松川 裕
65 赤木 正
74 有賀 伸夫
74 大野 志
96 期 体育 連合 会 有志
92 高幡 幸雄
82 小林 博行
112 勝又 啓
73 匿 名
76 千家 哲彦
74 鈴木 美佐子
74 大場 統弘
74 有賀 伸夫
73 和田 文男
72 吉田 淳
70 島 宣子
70 武 智
70 清水 傑
68 千葉 健
67 河崎 博
66 水野 恭
66 岡崎 俊
63 杉山 博
63 羽生 信
推 笹田 弥生
五十円 小山 幸一
六千円 田 東夫
79 佐藤 和之
79 佐藤 栄郎
116 武井 大侑
105 御園 正麻
95 匿 名
94 川崎 浩一
92 尾崎 明
91 星野 治
90 菊池 健
88 込宮 浩
83 松野 久光
83 松本 光子
81 松本 俊明
81 柏木 繼行
80 世良 俊治
73 澤 洋文
73 澤登 都
72 菊池 雄
67 今野 一
66 松川 裕
65 赤木 正
74 有賀 伸夫
74 大野 志
96 期 体育 連合 会 有志
92 高幡 幸雄
82 小林 博行
112 勝又 啓
73 匿 名

ご協力ありがとうございました。引き続き、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

119 67 千円 古瀬 智彦
110 98 千円 鷲下 明
110 65 吉田 宣
108 二千円 三田 一弘
106 104 三千円 健田 正雄
102 99 96 三千円 青木 貴美江
124 120 星尾 尚子
120 西倉 尚吾
119 倉品 建児
112 110 西江 真希
108 崇
106 阪本 智
104 川村 隼太郎
102 白井 健
99 大津 有子
96 大塚 皓司
95 翠川 泰弘
94 谷 浩行
92 濱崎 淳子
91 加藤 美
89 加藤 栄男
89 西山 和範
88 西山 孝
86 小島 信
86 遠藤 昌直
84 沢畑 明
83 前田 幸雄
82 中田 政明
82 三千代
81 加藤 久雄
80 柏原 了永
80 西野 和子
78 西野 宗
77 片野 茂
77 紅谷 義和
76 矢谷 征生

■ 会費等入金累計表 ■

	H30・4/1～5/31		H30・6/1～10/31		H30・11/1～H31・1/31		合　計	
	金額(円)	口数	金額(円)	口数	金額(円)	口数	金額(円)	口数
年度会費	1,655,000	552	2,124,000	708	1,156,000	386	4,935,000	1,646
十年会費	1,540,000	77	2,080,000	104	1,260,000	63	4,880,000	244
維持寄付金	966,680	100	1,339,545	138	921,120	94	3,227,345	332
基本財産寄付金	12,000	2	110,000	2	0	0	122,000	4

お寄せ頂いた会費・寄付金等につきましては、平成十七年四月より個人情報保護法が施行されておりますが、金額・卒期・氏名に限って公表させて頂きました。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

「会費について」

本会の会費制度についてご説明いたします。（ホームページ【URL https://www.kokugakuin.or.jp】の『会費・寄付金のお願い』の欄でも説明しています。併せてご覧ください）

まず『十年会費』の件です。平成8年の理事会において、会の財政安定を図るために、寄附行為の変更を行い、それまでの『終身会費』の名称を廃止し、『十年会費』への名称変更を決定いたしました。

既に『終身会費』として納入された方は、今後請求されることはないし、『終身会費廃止』は約束違反である、と思われるのは当然のことでありますが、院友数の増加や社会情勢をふまえ、『年度会費』あるいは『十年会費』への切り替えに、ご理解とご協力をお願いしよう、ということがこれまでの主旨でございます。引き続きより分かり易く、より丁寧に会員の皆さまに十年会費への切り替えをお願いして参りたいと存じます。

何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

既に『終身会費』として納入された方には、納入年から10年を経過しますと、会報に会費依頼状を同封させて頂きます。

また99期以降の学部をご卒業の方は、卒業時に代理徴収（終身会費または十年会費）させて頂いております。

平成31年度分の会費については、今から10年前の117期にご卒業をされた方、またはそれ以前のご卒業の方で会費が未納の方には、『ご協力をお願いいたします』が同封されます。同封の依頼状が『維持寄付金、学術・スポーツ振興資金をお願いいたします』（水色の依頼状）から『ご協力をお願いいたします』に変わった時が、『十年会費』の有効期限の終了になります。

会費の依頼状・振込用紙は、院友会報に同封いたします。是非皆さま方のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成31年度分は、『年度会費は3,000円、十年会費は20,000円です。』どちらかをお納め願います。

次に『維持寄付金』です。これは平成11年までの『維持会費』を会費との誤解を招かないために改称したものです。１口10,000円です。

一般財団法人國學院大學院友会では、『一般財団法人國學院大學院友会運営規程』第４条に、会費を定めております。（本会ホームページ参照）何卒会費のご納入をお願いいたします。

皆さまからお納め頂く『会費』・『寄付金』により、本会は事業を行っております。
ご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

訃報

真野　博氏（まの・ひろし＝本会参与・元本会理事／61政）十一月七日逝去。喪主は妻様（ご令主は明子様（ご息女）。

荻久保　泰幸氏（おぎくぼ・やすゆき＝本会参与・元本会理事・母校文学部名誉教授／61文・64修文）二月十七日逝去。喪主は倫子様（ご息女）。

田中　光彦氏（たなか・みつひこ＝元本会宮城県支部長／69神）十一月二十七日逝去。喪主は榮子様（ご令室）。

◆謹んでお悔やみ申し上げますとともに、ご生前の本会へのご尽力に感謝申し上げます。

院友からのひとこと

振込用紙伝言板

振込用紙の通信欄に書かれていたメッセージを掲載させていただきました。本来ならばお一人おひとりの了承を戴くべきところですが、何卒ご寛容の程、お願い申し上げます。

◆　◆

▼蔵重美佐子さん（77文／さいたま市）
古稀をすぎましたが定年後始めた弓道、今年度引き受けたボランティアの役員等元気なうちにと出歩いています。

▼小山東夫氏（70史／武蔵村山市）
全日本大学駅伝でのシード権獲得に感激しました。箱根も目指せシード権獲得を！

▼鈴木美佐子さん（74文／小山市）
時代は超特急で進んでいます。貴重資料保存に役立ててください。

▼浦部千尋さん（112法／七尾市）
いつも國學院の学生の活躍を見て、元気をいただいています。学生だった頃が懐かしく思います。

▼三木一弘氏（65文／高山市）
最も日本らしい大学として、益々発展されますことを喜びかつ祈念しております。

▼太島浩氏（99文／東京都八丈島八丈町）
先日、定時制の活動で東儀秀樹氏の雅楽に聞き惚れました。島にいることを忘れるひとときでした。

▼唐澤秀司氏（106法／愛知県額田郡幸田町）
院友バッジを作ったらいかがでしょうか？

▼澤登洋文氏（73文／南アルプス市）
箱根駅伝五位入賞！野球部打倒東洋大・亜細亜大！
後輩ガンバレ！

▼翠川泰弘氏（94史２／千曲市）
貴重資料のさらなるデジタル化を推進してください。

▼倉品建児氏（119神文／松戸市）
ヤクルトファンになりました。ヤクルトのドラ１清水君ガンバレ！

▼96期体育連合会卒業生有志
96期体育連合会卒業生有志より寄付いたします。平成二十九年のホームカミングデーは楽しませていただきました。

▼高橋正毅氏（73史／横浜市）
平成二十四年秋季から１部に定着。十三季最下位はなくも優勝もなし。来季こそ期待！「球場の観客席にはためける國學院の紫紺の團旗」

▼塩地悟史氏（99神２／福山市）
箱根・全日本シード権獲得おめでとうございます。

▼菊池建治氏（90神２／花巻市）
箱根駅伝でのシード権獲得、感動しました。選手、監督、コーチ、スタッフの皆さん本当にありがとうございました。

▼田中充博氏（87経／杉並区）
初めて新年交歓会に参加します。

▼白井政幸氏（101法／松戸市）
箱根駅伝での後輩達の活躍に、感動そして勇気づけられました。今後の母校の発展をお祈り申し上げます。

▼白川のり子さん（88史／南魚沼市）
箱根駅伝感動をありがとう

お弁当のご用命は
亀戸 ますもと
保存料・合成着色料を一切使わず、玉子焼きや
かまぼこに至るまで割烹職人手づくりのお弁当です。
ご注文・お問合せ　03－5609－1898
◆東京23区内、市川市、浦安市は
8,000円以上のご注文で無料配送いたします。
※世田谷区、大田区、板橋区、杉並区、練馬区は15,000円以上
TEL 03-5609-1898 / FAX 03-5609-1897
■取締役　副社長　坂本　美雄　（84期）

國學院大學博物館だより

企画展「和歌万華鏡―万葉集から折口信夫まで―」開催！

和歌を守り伝えた人々と書物

和歌の文化は、詠む、書く、学ぶ、という行為により生成・展開され、世々の歌人によって連綿と伝えられてきました。

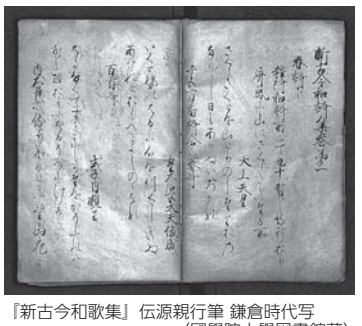
本展示では、古代から近代に至るまでの歌書を通して、和歌の魅力を再発見していきます。歌書の書体の流麗さや雅やかな装丁からは、当時の和歌に対する想いが伝わってきます。ただし、その魅力は時代や人により様相を異にし、通り一辺倒のものではありません。また、光の当て方が変われば、違う魅力も見えてきます。

〈万華鏡〉のように輝く和歌文化のありさまをお目にかけます。

展　示　無料
会期：平成31年４月27日(土)～６月23日(日)
会期中休館日：４月29日(月)～５月２日(木)、５月27日(月)
会場：國學院大學博物館 企画展示室

イベント　無料
会期中、ミュージアムトークのほか**本学名誉教授 辰巳正明**先生の講演会も開催予定！
◎詳しくは展覧会チラシもしくは、國學院大學博物館ホームページをご覧ください。

その他
ミュージアムショップにて展示リーフレットも販売！


『新古今和歌集』伝源親行筆 鎌倉時代写
（國學院大學図書館蔵）

香取神宮
名誉宮司 髙橋昭二
宮司 香取 武
〒287-0017 千葉県香取市香取1697
電話 0478-57-3211（代）

日光二荒山神社
名誉宮司 吉田健彦
宮司 中麿輝美
本社 〒321-1431 栃木県日光市山内2307
電話 0288−54−0535
中宮祠 〒321-1661 栃木県日光市中宮祠2484
電話 0288−55−0017
URL：http://nikko.futarasan.jp

日光東照宮
宮司 稲葉久雄
〒321-1431 日光市山内2301
電話 0288−54−0560
http://toshogu.jp/

日枝神社
宮司 宮西修治
〒100-0014 東京都千代田区永田町2−10−5
電話 03−3581−2471(代)

神田神社
宮司 大鳥居信史
権宮司 清水祥彦
〒101-0021 千代田区外神田2−16−2
電話 03−3254−0753
ＦＡＸ 03−3255−8875

東京都神社庁
〒107-0051 東京都港区元赤坂2−2−3
電話 03−3404−6525(代)

山梨県神社庁
庁長 根津泰昇
〒400-0013 甲府市岩窪町572
電話 055−288−0003

氣比神宮
名誉宮司 桑原恒明
宮司 福本祐喜
〒914-0075 福井県敦賀市曙町11−68
電話 0770−22−0794
ＦＡＸ 0770−22−0786

白山本宮・加賀一ノ宮
白山比咩神社
宮司 村山和臣
〒920-2114 石川県白山市三宮町
電話 076−272−0680
ＦＡＸ 076−273−0933

三嶋大社
〒411-0035 三島市大宮町2−1−5

久能山東照宮
宮司 落合偉洲
〒422-8011 静岡市駿河区根古屋390
電話 054−237−2438
ＦＡＸ 054−237−9456

武水別神社
宮司 堀内潔人
〒387-0023 長野県千曲市八幡
電話 026−272−1144

大阪天満宮
名誉宮司 寺井種伯
宮司 寺井種治
〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目1−8
電話 06−6353−0025

石清水八幡宮
宮司 田中恆清
権宮司 田中朋清
〒614-8558 京都府八幡市八幡高坊30番地
電話 075−981−3001(代)

三重県神社庁
〒514-0005 津市鳥居町210−2
電話 059−226−8042
ＦＡＸ 059−223−0892

島根県神社庁
庁長 角河和幸
副庁長 忌部正孝
副庁長 勝部和承
島根県出雲市大社町

世界遺産登録十五周年
熊野本宮大社
宮司 九鬼家隆

ようこそ、日本のはじまりへ。
橿原神宮
〒634-8550 橿原市久米町934
電話 0744−22−3271

福岡県神社庁
庁長 西高辻信良
〒812-0055 福岡市東区東浜1丁目5−88
電話 092−641−3505

遠石八幡宮
宮司 黒神直大
〒745-0816 周南市遠石2丁目3の1

嚴島神社
宮司 野坂元明
〒739-0588 広島県廿日市市宮島町
電話 0829−44−2020

鎮西大社 諏訪神社
宮司 池田剛康
〒850−0006 長崎市上西山町18番15号
電話 095−824−0445
ＦＡＸ 095−821−9377

筥崎宮
宮司 田村靖邦
権宮司 田村邦明
〒812-8655 福岡市東区箱崎1−22−1
電話 092−641−7431

筑紫（つくし）神社
筑紫の國號起源
宮司 味酒安志
〒818-0024 筑紫野市大字原田2550
電話 092−926−5443

霧島神宮
名誉宮司 髙橋弘平
宮司 慶光院利致
〒899-4201 鹿児島県霧島市霧島田口2608−5
電話 0995−57−0001
ＦＡＸ 0995−57−1990

宮崎県神社庁
庁長 本部雅裕
〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番2号
電話 0985−25−1775

熊本県神社庁
庁長 宮崎國忠
〒860-0005 熊本市中央区宮内3−1
電話 096−322−7474

西浦和障害年金OFFICE
社会保険労務士 深山元幸（98法）
〒338-0837 さいたま市桜区田島6-1-16-301
電話 048-865-1001
URL https://www.nisiurawasyougai.com

國學院大學合氣道部 OB会
会長 中川 健一
副会長・監督 渡邉 卓
幹事長 中坪 佑介
副幹事長 広瀬 健一
URL: http://kokudaiaiki.com

國學院大學 院友経済会
会長 大塚 勤
〒150-0011 渋谷区東四丁目12番8号
國學院大學院友経済会事務局
【連絡先】鈴木(03-5466-0117 大学経理課内)
URL: http://www2.kokugakuin.ac.jp/inyu-economics/

院友のたより

ついに連続十五回！ 今回は名護屋城跡を見学 74期史学科2組クラス会

平成十六年から毎年開催している我がクラス会ですが、今回は昨年十月二十四日・二十五日に唐津市に集まりました。佐賀県に三人の級友がいるためです。参加者は十五人に減少しましたが、全員が後期高齢者になったことと、突発的な事由があったためです。集合時間を午後三時、場所を日本三大松原の中にある「虹の松原ホテル」としましたが、松原と砂浜の間にありました。

チェックインを済ませ、早速にもタクシーに分乗して唐津焼きの窯元を訪問しました。

作品を鑑賞してから、登り窯を前にして窯元からの説明を受けました。続いて『万葉集』に記された松浦佐用姫伝説がある鏡山に登り、日が沈もうとしている唐津湾を一望しました。夜はホテルで懇親会を催しましたが、話題の多くは体調と健康維持のことでした。

翌日は貸し切りバスを利用しての巡見です。驚くほどの快晴に恵まれました。唐津神社に参拝しましたが、この神社の秋の例祭がユネスコ無形文化遺産に指定されている「唐津くんち」です。神社に隣接して「曳山展示場」があり、ここで大きくて見事な曳山を見ました。しかしこの日の巡見の主眼は、呼子にある名護屋城跡で、文禄・慶長の役では豊臣秀吉の本営となった城です。城跡にある名護屋城跡博物館は、平成五年に開館しましたが、韓国での反日感情から開設は難しかったのですが、日本と韓国の関係機関と協議を重ね、理解を得るために尽力し、初代館長に就任したのが級友の森醇一朗君です。バスの中ではこの間の苦労話を聞かされました。曽て森君の部下であった二人の学芸員が私たちを城跡に案内して下さり、詳しい解説を聞くことができました。最後は、当然ながら呼子の「イカの活き造り」を堪能しました。期待していたとおりでした。

次回は宮城県で開催することとしましたが、元気で再会することを約束しあい、唐津駅で解散しました。皆さん「元気」を貰って帰ったものと思います。

鈴木惠治（74史）記

ホテルの前での記念撮影

『花野会』――三鷹台女子寮同窓会

昭和三・四十年代、杉並区久我山にあった三鷹台女子寮は、寮生十名余、食事は当番制で作り、歌と笑いの絶えない家庭的な集まりであった。卒業後同窓会を作って、会の名を「花野会」―草花が一面に咲き匂う広々とした野原の意―と命名し、二年毎に集いを持っている。元寮生は全国各地に住んでいるから、幹事は持ち回りで、そこが会場となり観光案内する一泊二日。これまで、高遠、長崎、金沢、浜松などで開催された。今回は首都圏居住者が担当。平成三十年十月二十日、國大渋谷キャンパスでの「ホームカミングデー」参加で開幕した。まず受付の後、各々多彩な企画イベントを巡った。中でもわが花野会々員、市川八重子姉企画「倉吉絣展示及び無形文化財保持者、福井貞子氏による『絣と共に生きる』講演会」に一同大感動する。

その後バスで宿である上野池之端にある文豪森鴎外旧邸跡『鴎外荘』に移動。ここは舞姫の間や蔵造りの梁、水蓮花咲く庭園、著書舞姫の一節を刻んだ文学碑などあり、都会の喧騒を離れた静かな佇い。明治の浪漫香る宴会場「富士の間」で大学の元寮監、杉山道明（65文）先生始め参加者十七名で鴎外懐石を囲む。

校歌、國大小唄を歌い盛り上ったあと、一人ひとり近況を話し明るい笑いにあふれた。私の入寮は「もはや戦後ではない」といわれた昭和三十四年、希望に燃えた青春の頃、六十年間八入折りに度を上げてきた古酒を交して一夜酔いしれた。宴後は都内第一号の天然温泉といわれる鴎外温泉に浸る。

翌二十一日は銀座に出、歌舞伎座「勘三郎七回忌追善公演」に。勘九郎の凛々しさ、七之助の美しさに、歌舞伎界将来の盤石なることを思った。こうして半世紀をタイムスリップした至福の花野会同窓会は、二年後の再会を約し名残を惜しんだ。

飯田澄子（71文）記

舞姫の間

101期文学部史学科一組同窓会　開催

平成三十年七月二十八日（土）、台風十二号が接近する中、國學院大學院友会館にて101期史学科一組の同窓会を開催した。平成五年に卒業してから早くも二十五年、悪天候にも関わらず懐かしい顔触れが集まった。乾杯のあと終始和やかに談笑し、各々が近況を報告した。転勤、転職、結婚、離婚、など私生活や社会生活における転機についても語られた。学生当時、あまり交流のなかった仲間も同窓ならではの共通の思い出やエピソードなどを語り合い、楽しいひと時を過ごした。

参加者それぞれが会社員、公務員、教員、神職など社会で活躍しているが、中でも郷土史家として活躍している鈴木かほるさんより著書を贈呈いただき、著書争奪ジャンケン大会は大変盛り上がった。同窓生皆の今後の活躍が楽しみになった。さらに、残念ながら今回、都合のつかなかった仲間にも会いたい気持ちも強くなり、次回の再会を約束してお開きとなった。

酒井　剛・茶木貴之（101史）記

次回もお楽しみに!!

「國大九十期」同窓会総会のご報告

「國大九十期の会」は、昭和五十三年國學院大學・文学部神道学科の入学者で構成されており、度々同窓会を行っておりましたが、平成十九年に有志が大阪に集合し、三年に一度同窓会総会を開催すべく、役員を構成し、会則を整え年会費を徴収して運営しております。

今回で五回目を迎えた総会は、平成三十年十二月四日、この時期にしては異常なくらい暖かい、北支部の山形県内ホテル「八乙女」に、全国から八名の参加の元、開催。（山形二名・岩手二名以上北支部、新潟一名・中央支部、高知一名・広島一名・大阪一名以上西支部）

総会では、幹事長の会務報告があり、前回九州支部総会の決算と会費納入の報告が会計よりあり、異議なく了承されました。

その後の懇親会では会長の挨拶、担当幹事の乾杯で旧交を温めました。参加者の近況などで和み、美味しい海鮮料理と上等なお神酒で気分も良く進むも、その北支部の中には東日本大震災で甚大な被害を受けた神職もおりまして、七年の歳月が経ち信者さんのお力にて神社の復興は進みつつも、高齢化・氏子の減少等での将来の不安は相当あるようでした。

翌五日、前日とは真逆の寒さの中で、入湯・朝食後、同窓生が禰宜を務めます、出羽三山神社へ向かい正式参拝を行いました。暖かい御持て成しを受け、清々しい気持ちのまま空路・陸路に分かれ各奉仕神社へ戻りました。

次回（今年六月開催予定）は御代替わりの年となります為、本宗と仰ぎます伊勢神宮において同窓会総会を開催いたす予定ですので、大勢の同窓生の参加を願い申し上げます。

下垣　太（90神2）記

5回目を迎えた総会

寄贈図書

院友の皆さまから、いつも多くの著書をご寄贈いただいております。心から御礼申し上げます。

今回は平成三十年七月からの分を掲載させていただきました。これ以降に頂戴したものは、次号以降とさせていただきます。ご了承ください。

◆書名／①著者・編集者名（卒期／敬称略）②出版社・発行所③刊行年月④定価（税別）

◆**余蘊孤抄　碩学の日本史余話**／①嵐義人（77法・80修史・84博史）②㈲アーツアンドクラフツ③平成三十年三月④二千五百円

◆**八幡さんの正体　八幡信仰と日本人**／①鍛代敏雄（90史・92博前史・96博後史）②㈱洋泉社③平成三十年七月④九百五十円

◆**特別展　金剛宗家の能面と能装束**／①②公益財団法人三井文庫・三井記念美術館③平成三十年二月④二千二百円（完売）

◆**おれは一万石　一揆の声**／①千野隆司（82文）②㈱双葉社③平成三十年八月④六百三十円

◆**川柳の手帖・まめ知識あれこれ**／①竹田光柳（69文）②日之出印刷㈱③平成三十年七月④千五百円

◆**アマテラスの二つの墓　東西に封じられた最高神**／①戸矢學（91神）②㈱河出書房新社③平成三十年八月④千八百五十円

◆**野分の朝　江戸職人綴**／①千野隆司（82文）②㈱徳間書店③平成三十年九月④六百七十円

◆**歌集　谿泉**／①玉井清弘（71文）②㈱KADOKAWA③平成三十年九月④二千六百円

◆**天平の律令官人とくらし**／①出川廣（85史）②桜山社③平成三十年十月④千五百円

◆**特別展「仏像の姿」～微笑む・飾る・踊る～**／①②公益財団法人三井文庫・三井記念美術館③平成三十年九月④二千円

◆**詩集　神事**／①阿部堅磐（77文）②土曜美術社出版販売③平成三十年十月④二千円

◆**新國學　復刊第十号**／①菅野雅雄編（65文2・68修文・71博文）②國學院大學院友学術振興会③平成三十年十一月④五百円

◆**薫の道心と恋情**／①三苫浩輔（68文・70修文・73博文）②㈲政光プリプラン③平成三十年九月④二千八百円

◆**楚辞後語全注釈五**／①吹野安（64文）・宮内克浩（94文・96博前文・99博後文）②㈱明徳出版社③平成三十年十一月④三千円

◆**歌とエッセイ　残照　生きて生きゆく**／①小林宣子（74文）②東洋出版㈱③平成二十六年十二月④千三百円

◆**民俗伝承学の視点と方法～新しい歴史学への招待**／①新谷尚紀（母校文学部教授）②㈱吉川弘文館③平成三十年十二月④九千五百円

◆**古代の祭祀構造と伊勢神宮**／①塩川哲朗（122博前神・126博後神）②㈱吉川弘文館③平成三十年十二月④一万二千円

◆**季刊「焔」第114号**／①②福田正夫詩の会③平成三十年十一月④千円

◆**日本の食文化1　食事と作法**／①小川直之（83文）②㈱吉川弘文館③平成三十年十二月④二千七百円

◆**平氏が語る源平争乱**／①永井晋（90史・92博前史）②㈱吉川弘文館③平成三十一年一月④千七百円

◆**國學院大學七十六期文学部文学科三組・会報創刊号「しぶき」**／①中村誠（76文・79修文・82博文）③平成三十一年一月④非売品

◆**分家の始末　下り酒一番（二）**／①千野隆司（82文）②㈱講談社③平成三十一年一月④六百六十円

◆**一頭の小象**／①加藤葉子（78史）②かまくら春秋社③平成二十八年七月④千二百円

◆**身延線、ものがたり～または再会のものがたり**／①紀智之＝高原玄承（78神）②㈲朗月堂③平成三十年十二月④千八百円

◆**峠を旅する完全ガイドブック！全国2954峠を歩く**／①中川健一（79法）②㈱内外出版社③平成三十年八月④千六百円

◆**律令国家の祭祀と災異**／①小林宣彦（106神専攻・108博前神・111博後神・113博後神）②㈱吉川弘文館③平成三十一年二月④一万千円

＝お詫び＝

院友会報第370号（新年号）に誤りがございました。正しくは次のとおりです。

■4ページ・「おめでとうございます」のお名前

◆結婚（正）関野有紀さん（誤）関根有紀さん

会員の皆さま、ならびに関係各位にご迷惑をおかけしましたことをお詫びするとともに、訂正させていただきます。

神奈川県支部

◎支部長…近藤 正臣（こんどう・まさおみ／76文）
◎事務局…鎌倉市雪ノ下二―一―三一 鶴岡八幡宮 軽部 弦（110日文）
☎〇四六七―二二―〇三一五

救いを求める人のために

日本赤十字社は「人道の実現」を理念に国際救援・開発協力や災害救護を始めとした様々な活動を行っています。今回ご紹介するのは、日本赤十字社神奈川県支部でご活躍されている若佐一真（126法）さんです。

若佐さんは平成二十六年に大学入学後、学生キャリアサポーターとして主に学生に対して就職活動に関する情報を発信し、自身も大学のキャリアサポート課にて長期インターンシップを経験されました。また一年次より業界を問わず四十社以上のインターンシップを経験され、マクドナルドやクラブツーリズムで添乗員のアルバイトをされてきました。マクドナルドのアルバイトにおいては四年間続けられ、その中でお身体の不自由な方への接客に課題を感じ、自ら「サービス介助士」の資格を取得されました。さらに同僚にもトレーニングを実施し、店舗環境改善をはかり、東日本本部長より接客優秀者として表彰されました。

その後、「救いを求めている人」と「救いたい人」を結ぶ仕事に全力を注ぎたいという想いから、平成三十年に日本赤十字社に入社されました。現在は神奈川県支部事業部青少年・ボランティア課に所属し、命と健康を大切にする心、社会のため人のために尽くす責任を自覚し行動できる奉仕の心、広く世界を知り助け合う心を養うことを目的として、国際理解や防災教育、救急法等の出張授業、国際交流や各種研修の実施といった多種多様な活動を学校教育の中で展開されています。

また自身も、災害発生時に備え救護員としての訓練を定期的に受けられ、時代の変化・ニーズを捉えた支援で「救いを求める人」の力になる事、誰しもが持つ優しい心を結集して、人道の輪を強く・大きくしていきたいという夢のもと、日々の業務に励まれています。

若佐さんの今後の益々のご活躍を期待しております。

支部事務局・記

「人」の大切さを伝える若佐一真さん

奈良県支部

◎支部長…古川 通明（ふるかわ・みちあき／65史）
◎事務局…橿原市久米町九三四 橿原神宮 村上 和朗（102別専2）
☎〇七四四―二二―三二七一

我らが橿考研と附属博物館

大和は国のまほろば。倭建命がたたえた地をフィールドに橿原考古学研究所（橿考研）は考古学と日夜格闘しています。黒塚古墳、藤ノ木古墳、高松塚古墳、太安萬侶墓、飛鳥宮跡をはじめ幾多の著名な調査を手がけ、昨秋に創立八十周年を迎えました。皇紀二千六百年（昭和十五年）記念事業の一つである橿原神宮外苑整備工事が昭和十三年六月に始まり、工事現場で土器の出土が頻繁になってくると、当時奈良県社寺兵事課の史跡名勝天然記念物調査委員会考古学担当嘱託であった末永雅雄博士（橿考研初代所長）が同年九月十三日に現場を訪れ、簡易な調査事務所を造って発掘や遺物収拾を開始しました。これが橿原遺跡（縄文時代晩期）の調査と橿考研の始まりで、その日を創立記念日としています。

昭和四十九年、橿考研は条例で奈良県立となり、橿原神宮外苑整備事業で造られた橿原道場の大和国史館を始原とする橿原考古博物館を附属の博物館とし、現在に至る体制が整いました。附属博物館は今年一月より大規模設備改修工事のため、概ね二年間の休館に入りました。再開に向けて一層奮励中です。現在、橿考研には調査係長米川仁一さん（95史・98博前史・104博後史）、附属博物館には指導学芸員小栗の院友二名が在籍しています。我らの仲間となる後進の院友が現れる日を心待ちにしています。

◆橿原考古学研究所
橿原市畝傍町一番地
☎〇七四四―二四―一一〇一
FAX〇七四四―二四―六七四七

◆橿原考古学研究所附属博物館
橿原市畝傍町五〇―二
☎〇七四四―二四―一一八五
FAX〇七四四―二四―一三五五

橿原考古学研究所と小栗明彦さん（左）米川仁一さん（右）

小栗明彦（100博前史／奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 指導学芸員）記

和歌山県支部

◎支部長…瀬村 浩璽（せむら・こうじ／74政）
◎事務局…和歌山市太田一二〇―六―三一三 小山 譽城（81史／83修史）
☎〇七三―四七一―八五二三

母校の学びを生かして研究者に

昨年八月二十六日に開催した支部の第20回公開文化講座は、多勢の聴講者で会場がいっぱいになりました。大学からは矢部健太郎教授（103史・105博前史・108博後史・112博後史）に「豊臣政権と秀次事件」で講演をしていただき、支部からはここで紹介する金田圭弘さん（100文）が「衣通姫と源氏物語紫の上」で講演しました。

金田さんは近畿大学附属和歌山高校・中学校教諭で国語を教えています。また多忙の中、和歌の浦に関する文学の研究を続けられ、平成二十八年には『和歌の浦の誕生―古典文学と玉津島社―』を共著で出版されました。聖武天皇の行幸以来注目されてきた「若の浦」について各時代を経て和歌の聖地としての「和歌の浦」に成長していく種々相を明らかにしながら、衣通姫と紫の上が和歌の浦とどうのように結びついているかなどを解明されています。

大学時代は金田元彦（56学国文）先生と同じ姓ということがあり、卒論指導だけでなく、私的な交遊もあったそうです。漢文学概説の試験が白紙状態だった時は、友人と芳賀矢一先生の銅像の下でヤケ酒を飲んだりしたことも。

趣味は鉄道で、勤務校の紀要に「漱石は鉄ちゃんである―『こころ』下と漱石の鉄道」と題して漱石が鉄道オタクかどうか検証し、『こころ』との関わりについて、興味深い文章を書いています。

母校での学びを更に深めている頼もしい存在です。

小山多満恵（81史）記

鳥取県支部

◎支部長…山本 輝美（やまもと・てるみ／83経）
◎事務局…鳥取市国府町宮下六五一 宇部神社 兒玉 雅州（118神専攻）
☎〇八五七―二二―五〇二五

大切な同級生♪

今回ご紹介するのは、118期生の佐々木義敬さんです。鳥取県米子市の社家に生まれ、大学は東京のカトリック系の大学で英語を中心に勉学に励んだそうです。その後、國學院大學神道学専攻科に入学し、卒業後は自己研鑽を兼ねて英語の塾講師等の仕事をされていましたが、一昨年より神職に専念するため退職。現在は米子市に鎮座する勝田神社権禰宜として、地域の発展の為に日々神明奉仕なされています。

趣味はバスケットボールで、鳥取県西部のアマチュア公式リーグに所属されておられます。

「神道からは遠そうな歩みや趣味だが、講師仲間やチームメイトから訊かれる神道のイメージは良いものが多くて面白い。幅広い分野の氏子さんからの意見を大事にしていける神主を目指し、人手不足が叫ばれている斯界の先兵として、出来る事をしっかり行っていきたい」と力強く語ってくれています。

実は義敬さんと私は専攻科時代同級生でした。県内に同級生で同じ志をもつ人がいることは大変心強いです。地域発展の為、これからも力を合わせ鳥取県の院友会を盛り上げていきたいと思います♪

◆勝田神社
米子市博労町二―一〇
☎〇八五九―二二―五四一五
HP http://katsutajinja.or.jp/

兒玉雅州（118神専攻／支部事務局）記

島根県支部

◎支部長…青木 義興（あおき・よしおき／69史・70神専攻）
◎事務局…松江市八幡町三〇三 平濱八幡宮 青木 義親（103神）
☎〇八五二―三七―〇四三五

ようこそ出雲へ

快挙、箱根駅伝、総合7位!!

新しい元号に変わり、最初の出雲駅伝に参加決定。久々に山陰に朗報が届く。駅伝のメンバーの皆さまには、感謝、感謝です。

國大の選手の宿泊会場、前夜祭の会場となるニューウェルシティ出雲は、昨年の六月に「株式会社LPCホテル&リゾート」となり、新しく「湖畔の温泉宿くにびき」を加え二社となりました。

このリゾートホテルは、出雲市駅から約十キロの地点にあり、しじみで有名な神西湖畔にあります。

ホテル内には、大浴場、客室、宴会場、レストラン、カラオケルームがあり、外にはグラウンドゴルフ場、バーベキュー場があります。

ロビーに入るとガラス越しに神西湖が一望でき、その美しさには、どなたにも感動していただけると思います。

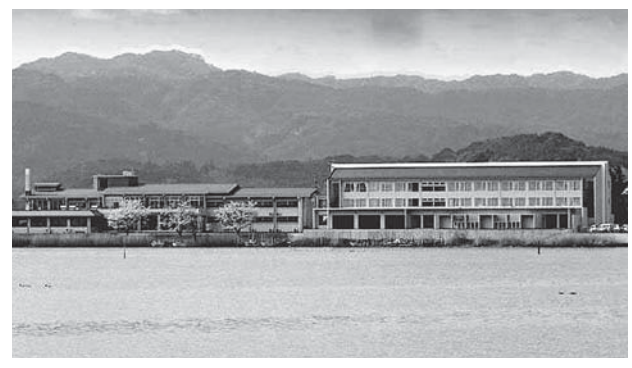
都会の喧噪から逃れ、自分らしさを取り戻せる最高のホテルであると、自負しております。

近くには、出雲大社（車十五分）、日御碕神社（車三十分）、須佐神社（車二十分）、世界遺産石見銀山（車六十分）等があり観光の拠点としても便利です。

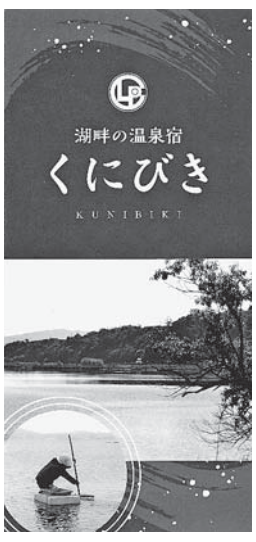
十月の駅伝では、沿道の赤紫の旗がたなびく中、選手の皆さまが力走されることでしょう。

國學院大學バンザイ!!

出雲でお待ちしております。


神西湖畔にたたずむ「くにびき」

◆湖畔の温泉宿 くにびき
〒六九九―〇八一二 島根県出雲市湖陵町二部一一三〇
☎〇八五三―四三―二二一一
郵〇一二〇―〇六―九九二一
FAX〇八五三―四三―二二一三
HP https://www.kunibiki.com/
交 ①JR山陰本線江南駅からタクシーで五分 ②山陰自動車道出雲ICから国道九号を大田方面へ六km



廣田恵春（83経／株式会社LPCホテル&リゾート）記

山口県支部

◎**支部長**…竹中 恒彦（たけなか・つねひこ／73神）
◎**事務局**…下関市中之町一―一
亀山八幡宮
竹中 信彦（109神2）
☎〇八三―二三一―一三三三

～まちづくりに頑張っています～

鈴木宏明さん

私の住む防府市は、山口県瀬戸内海側のほぼ中央に位置し、温暖な気候に恵まれています。三田尻という良港を持ち、江戸時代より山陽道と萩往還が交差する交通の要衝の都市でした。しかし戦災を免れたお蔭（？）か、駅前の街並みも旧態依然とした手の施しようもない有様でした。

そんなまちを「何とかしなくては！」と立ち上がったのが、國學院大學経済学部88期卒の藤本晃二さんです。彼は駅前のその一角で「㈱八百ふじ」という八百屋を営んでおりますが、そのような状況に「よし、このまちはわしが変える！」と一念発起し、二十数年前四十歳にして、駅前再開発のリーダーとして立ち上がったのであります。

駅前の一等地で、利権も大きく絡み、住人や権利者をまとめるだけでも筆舌に尽しがたい苦労があったようです。その上、再開発等の許認可をとるだけでも市や県そして国との交渉など、普通はとっくに挫折していてもおかしくないことを、彼はその苦労を楽しみながら十年の歳月をかけ見事に再開発という事業を成し遂げたのでした。市内友人知人に理解を求め資金を集め、なんと資本金二億円のまちづくり会社「周防夢座」を立ち上げ、マンション併設の複合商業施設「ルルサス」を誕生させたのです。

完成から約十年が経ちますが、彼のお蔭で防府のまちは「ルルサス」を中心に活性化の輪を広げています。

藤本晃二さんとルルサス防府

◆**㈱八百ふじ**
防府市栄町一―五―一
ルルサス防府一F
☎〇八三五-二二一-一〇九三

◆**防府天満宮**
防府市松崎町一四―一〇〇
HP http://www.hofutenmangu.or.jp/

鈴木宏明（93神専攻／防府天満宮宮司）記

徳島県支部

◎**支部長**…大岡 慶久（おおおか・よしひさ／75経）
◎**事務局**…阿波市市場町市場上野段一四九
北岡 晃（85法）
☎〇八三―三六―四〇六三

発足・徳島落語研究会

平成二十九年六月、船城修（ふなき家小びん太・92経）さんが発起人の一人となって「徳島落語研究会」を立ち上げ、同月の発足記念落語を徳島市八万中央コミュニティセンターで開催し、地元徳島新聞の朝刊でも研究会の発足と落語会の開催について大きく取り上げられました。

当日は、院友会徳島県支部の仲間をはじめ五十名を超える地域の方々の参加で賑わいました。落語会は「八万寄席」と銘打ち、畳敷きの広間で近しく地域に密着した形で、地元の皆さんに落語を楽しんでもらえることを目標に進行されていました。徳島在住のふなき家小びん太（船城修）さんをはじめ瓦亭古事記さん、桜亭笑太郎さんの三者はそれぞれに精一杯演目を演じ、客席の皆さんも大いに楽しんでいました。さらに当日は、徳島落語研究会としても、発足してまだ日も浅く、演者も少ないので、同じ國學院大學の卒業生である香川県在住のアマチュア落語家酔亭藪太郎（大藪誠司・94文）さんも友情出演され会を盛り上げていました。

現在の落語研究会は、毎月の公演に加えて外部団体からの公演依頼や阿南高専生との合同公演、さらには香川県との合同公演など益々活動の場も広がり今後が期待されています。

北岡　晃（85法／阿波市教育委員会）記

ふなき家小びん太さん

高知県支部

◎**支部長**…大久保 千尭（おおくぼ・ちたか／73史）
◎**事務局**…高知市天神町一九―二〇
天満宮
山中 隆寛（102神2）
☎〇八八―八三三―二八九六

地元密着のビジネスそして子供たちの未来のために

高知県支部の竹中利文（106法）と申します。私は大学卒業後、家業の段ボール業の県外修行に出ましたが、その一年後、大手飲料メーカーのダイドードリンコ㈱と室戸海洋深層水を使った『ミウ』を製造する会社を設立することになり、高知に呼び戻されて今に至ります。

そのミウも、平成十二年の販売からおかげさまで現在まで全国の自動販売機に入り、二〇二〇年に発売二十年を迎える予定です。また海洋深層水で繋ぐローカルtoローカルのビジネスも展開しており、現在は熊本県阿蘇市、鳥取県湯梨浜町とのお付き合いも深まっています。ついては、この好機にと、地元室戸の海洋深層水を主軸に様々な逸品を展開するショップ&カフェもオープンさせました。高知龍馬空港からも見える距離、高知に来られる際にはぜひお立ち寄りください。

竹中利文さん

一方、そんな私の今の専らの趣味は、実はPTA活動です。子供の笑顔につられて楽しんでいるうちにご縁を得て、今年は高知県小中学校PTA連合会会長の職をお預かり中です。

様々な環境に置かれた子供たちの現状を知ると、何か自分にできる事があるのではないかと日々考えさせられる事も多く、毎日が勉強です。

OMOIYARIの心が醸成された子供たちが未来の日本を支えてくれることを切に願い、凛とした背中を見せることの出来る大人となるべく、今日も元気に活動しています。

◆**㈱タケナカ**
室戸市羽根町乙三二〇
九―三二七
☎〇八八七-二六-一二一二
HP http://www.e-takenaka.com

竹中利文（106法）記

「院友のビジネスサポート」サービスご案内

1. サービス内容
●内　容　年3回発行の院友会報発送時に、宣伝物（チラシ、ハガキ等）を同封いたします。
「院友会報発送予定時期」
① 8月上旬（暑中見舞号）　②12月中旬（新年号）　③ 4月上旬（新院友歓迎号）
発送時期は、若干前後することもありますのでご了承ください。
●部　数　1回あたり94,000部（※平成31年3月現在）

2. 料金
●3円×部数＋消費税　（※1回につき）

3. 注意事項
●封入物　貴社で作成をお願いいたします。
※校正段階で内容を確認させていただきます。
封入物には、必ず院友のご担当者名とその方の卒業期・卒業学科を明記してください。
●サイズ　応相談（原則としてB5判）
●納品先　國學院大學院友会　宛
封入物を上記発行時期の2週間前までに納品してください。
●その他　内容によっては、お取扱いできない場合もありますのであらかじめご了承ください。

4. お申し込み・お問い合せ先
國學院大學院友会
〒150-0011　東京都渋谷区東4-12-8　TEL 03-3400-7781
FAX 03-3400-7996 メールアドレス：inyuukai@kokugakuin.or.jp

著書紹介

中世鷹飼の春秋～鷹狩の種々相12話・「蒙求臂鷹往来」12か月～

山名隆弘（72史・123博後史）著

山名隆弘氏（72史／123博後史）の半世紀以上の研究の賜物であり、歴史学博士論文「中世鷹狩の研究」に係るご著書である「中世鷹飼の春秋～鷹狩の種々相12話・「蒙求臂鷹往来」12か月～」が雄峰舎より上梓されました。

著者である山名氏は洽覧深識であり、福島の歴史伝承などを現代に具現化され、また院友会浜通り支部長として活動の企画立案に貢献されるなど、その実行力には常々圧倒されております。

このご著書は「戦国大名と鷹狩の研究」などこれまでの研究を冷静かつ厳しい視線で省察されるばかりか、新たに「蒙求臂鷹往来」の全文を解読しております。日本の「放鷹」研究に大きな足跡を残す一冊になると確信しております。

ご著書の元になる、歴史学博士論文「中世鷹狩の研究」は國學院大學K-aiserで閲覧できます。600ページを超える論文で、中世を語る上で、古代からの脈絡で紐解き、特に古代から中世へ移行する時期における神仏習合や本地垂迹思想と放鷹などの視点や考察は、歴史教育に携わる者として改めて気づきや自省させられるばかりでした。

著者のお人柄に接する機会をたまわった一人として、歴史に対する熱いロマンをご著書から感得しました。

（雄峰舎（八幡印刷株式会社出版部）／平成三十年六月刊／価格：千三百八十九円：税別）

都立高校教諭　鈴木章弘（108法）記

『漱石の〈夢とトラウマ〉―母に愛された家なき子』

原田広美（91文）著

四十年程前、文學會（近代日本文学研究会）の顧問は、荻久保泰幸（61文・64修文）先生。傳馬義澄（71文・75修文・80博文）先生も母校に戻ってこられたばかりで、道玄坂へもご一緒いただいた記憶がある。

当時、後輩として在籍していた原田（旧姓亀井）廣美は、常に不思議なアプローチの仕方で作品を語る人だった。心理療法家として作品を見る眼は、「澁谷の岡」の大学時代に培われたものなのかそれ以前に起因するものだったのか。『抑圧』を解放し、『トラウマ』を癒すために、漱石は、まず『（自分の創作としての）文学への夢』を発掘して生成し、その後、『創作』に『冒険』を取り入れることにより、さらなる自己の深層解明と、内包する『夢』を基盤にした創造性の開花を試みた」とする考察は、原田における漱石論の集大成であろう。この論をもとに漱石の代表作品が明快に語られ、読者を不思議な世界に誘っていく。原田は、漱石を語る中で次の様にも記している。「自らの『夢』を生きる時、困難な中にも喜びをもって、人生を歩めるものである」と。大学卒業後の原田の紆余曲折を考えたとき、漱石に対する眼は、自分に向けられた眼と重なるものがあったのかもしれない。

（㈱新曜社／平成三十年十月刊／価格：二千八百円：税別）

大谷大学教育学部教授　望月謙二（90文）記

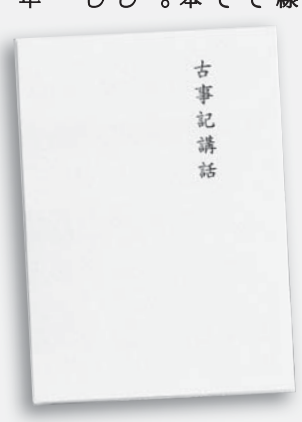
古事記講話

菅野雅雄（65文2・68修文・71博文）著

院友学術振興会会長の菅野雅雄氏が、近年の研究をとりまとめた論集を刊行した。『古事記講話』と題された一冊は、「成立」「神話」「天皇」「語誌」「付・書紀」の五つの構成によって二十本の論考が収録されている。構成内容からも明らかなように、『古事記』の根幹に関わる問題についてまとめられている本書は、『古事記』を学ぶものにとって必読の書といえよう。しかも、その内容は学会や専門誌にて発表された専門的内容を含みながらも、文体は平易で読みやすさに配慮がなされている。そのため『古事記』の愛好家など一般の方にも手に取りやすい。これは、ひとえに長きに亘って『古事記』研究の一線に立ちながらも、各種講座にて多くの方に『古事記』を講話してきたことによるものであり、本書のタイトルそのものである。『古事記』の啓蒙・普及に尽力してきた著者の学知と人柄を感じさせる一冊である。

（発行㈱おうふう／平成三十年九月刊／価格：二万二千円：税別）

國學院大學研究開発推進機構助教　渡邉　卓（110日文・112博前文・116博後文）



福岡県支部

◎支部長…田村 靖邦（たむら・やすくに／74政・75神専攻）
◎事務局…福岡市中央区六本松一―一―一 福岡縣護国神社 杉山 弘晃（121神文）
☎〇九二―七四一―二五五五

いざ福岡県へ

今の福岡県はとても活気を感じられる地域です。そんな福岡県の北九州市に、私は移住することになりました。今年四月に行政書士法人の事務所を小倉北区に開設予定です。子供のころから悲願だった福岡県への移住が目前に迫り、身の引き締まる思いです。

私は兵庫県姫路市生まれの大阪府堺市育ちですが、子供のころから北九州市出身の母に連れられ、福岡県を度々訪れるうちに福岡県が大好きになりました。福岡好きが嵩じて地元の関西で「関西福岡県人会」という福岡県縁故の集まりのスタッフとしても活動しています。

吉田真人さん

福岡県支部とのご縁は、三年前の平成二十七年の春からです。事務局であった筥崎宮にて、院友の先輩と後輩のお二人にご挨拶した際、その年の八月予定の支部総会にお誘いいただきました。私としては、参加は移住が実現してからだと考えていたところ、お二人から背中を押していただいたお陰で参加することができました。その後も昨年まで三年連続で参加しています。総会以外でも福岡県支部の院友とは交流をさせていただいています。このような総会以外でもご縁を深められるのが福岡県支部の魅力です。そのお陰で、福岡県出身ではない私が、この原稿を任せていただくことができました。

「風が吹くことで流れが変わる」という言葉を聞いたことがあります。福岡県支部の院友との交流という「風」が、私の福岡県移住の「流れ」を作ってくれたと実感しています。福岡県支部の皆さまには本当に心から感謝しております。今後は、風を作ることを私の方からお手伝いしたいと考えています。

佐賀県支部

◎支部長…西川 祀夫（にしかわ・のりお／72文）
◎事務局…佐賀市鍋島一―二―一―五〇一 光武 司（92経2）
☎〇九五二―三〇―一六三三

院友三人が集う 佐賀市の牛嶋天満宮

84期神道学科卒。陣内喜弘（じんのうち・よしひろ）氏が宮司を務める格式ある牛嶋天満宮を紹介します。同宮は、学問の神様として崇敬されている菅原道真公をお祀りしており、仁平元年（西暦一一五一年）に道真公の子孫の方が創建された神社です。その後、鍋島勝茂公が佐嘉城を築くにあたり、鬼門鎮護のため旧運池町から城下の鬼門（北東）である現在地に遷座されたもので、境内入口に建つ肥前鳥居には勝茂公の名前が刻まれています。御祭神は、人としての才能に優れた人でありましたが、完全無欠ではなく、悩んだり、落ち込んだり挫折を味わったことから挫折・復権の神様で、人間味溢れる神様であります。

境内に、樹齢千年といわれ佐賀市の天然記念物に指定された楠のご神木があります。このご神木は、昔台風で倒木し、その倒れた幹がそのまま成長し、現在の姿になったものと推定され、一度倒れても、再度起き上がり、現在に至っている姿から多くの方々の崇敬を集めているようです。

昭和四十年代までは、秋祭りには御神輿の行列が氏子町内を巡幸しており、昭和五十三年には、牛が神輿を引きながらの巡幸を行っておりました。平成になり、子供綱引き、屋台出店等もなくなりましたが、院友二人（鶴洋氏・74政と私、武藤良平・80法）が総代会に加わりました。小さな神社ですが、院友三人、総力を結集して、新しい時代のイベント等で地域社会に貢献すべく努力して行きたいと思います。

武藤良平（80法／武藤文庫（私設美術館代表））記

長崎県支部

◎支部長…松尾 整子（まつお・せいこ／84文）
◎事務局…長崎市横尾三―一九―三 中村 淳（91法）
☎〇九〇―五〇二九―二二〇七

おかげさまで

堤 利貴さん

中学・高校時代は吹奏楽部員（トランペット）。國學院大學卒業後、昭和六十年四月から長崎女子商業高等学校国語科教諭として十年間勤務。その後、ご縁があり平成七年四月から瓊浦高等学校に奉職し今に至る。

平成七年度は講師として国語科の授業を担当し、放課後は複数の運動部員にウエイトトレーニングをアドバイス。平成八年度は柔道部の副顧問。平成九年三月に國學院大學の大先輩である栗山幸生（71史）校長（現理事長）から校長室に呼ばれ、「写真部を持ってくれないか」と声をかけられる。経験も興味も知識もない「写真」であったが、私は「写真のことは何でも存じております。お任せください。」と、とんでもない返事をしてしまった。その日のうちに「暗室技法（ｈｏｗ ｔｏもの）」のビデオテープを注文（一万五千円也）。四月から教諭。

当時新婚ホヤホヤであったが、帰宅後は必ずそのビデオテープを見た後に夕食。ベッドに入ると写真雑誌に目を通して就寝。初めての県大会。白黒写真ばかりの中、カラー写真で参加。まさかの最優秀賞を受賞し、平成十年全国高等学校総合文化祭（鳥取）写真部門に長崎県代表として初出展。気がつけば今年七月末に十四回目の全国行きも決定。國大の先輩方と生徒たちのおかげさまで、充実した教員生活を送っております。

堤 利貴（93文2／瓊浦高等学校教諭）記

熊本県支部

◎支部長…河島 一夫（かわしま・いつお／84文）
◎事務局…熊本市西区花園五―二八―二〇 山本 廣勝（97文）
☎〇九六―三五二―七一八九

愛されるお菓子「味屋製菓」

熊本で昔から愛されているお菓子に「あられ」「亀せん」がある。この揚げ菓子を製造するのが、ＪＲの西熊本駅と川尻駅の中間ほどにある味屋製菓である。この会社を営んでいるのは、本支部で役員をしていただいている93期文学部卒の濵田 功氏である。濵田氏の父が創業し、平成三十年八月で創業五十五年を迎えた。「味」を矢で貫くシンボルマークには、「味を貫く」という思いが込められている。「亀」を模した商品ロゴや変わらないパッケージ、創業当時から親しまれている味を守り続けている。「あられ」は、サクッと軽く、塩味が効いている。「亀せん」は、亀の甲羅に形を模し、甘辛いしょうゆ味でバリバリと一気に一袋は食べてしまいそうなお菓子である。揚げ菓子の「歌舞伎揚げ」や「ぼんち揚げ」などの原材料は、米粉であるが、「亀せん」は、小麦粉を用いることでザクザクとした食感を生み出している。

駄菓子屋をはじめ、スーパーマーケットなどで購入することができる。価格は一袋百円程度である。

食べたことのない方は、熊本にいらっしゃった時に食べてほしい。また、インターネット通販サイトでも購入可能だ。

◆味屋製菓合資会社 熊本市南区合志一―三―七 ☎〇九六―三五七―九一八五

山本廣勝（97文）記

大分県支部

◎支部長…高司 信太郎（たかじ・しんたろう／79法・80神専攻）
◎事務局…杵築市谷町一八九―二 神田 毅（104文）
☎〇九七八―六九―七〇三二

支部U―50の担当幹事として

園田吉治さん

私は、106期に経済学部経済学科を卒業しました。在学時は硬式野球部に所属しておりました。仲間と一緒に白球を追いかけていたのを昨日の事のように思い出します。野球部での経験、仲間と一緒に築き上げてきたものは、私の人生の礎になっています。母校硬式野球部の鳥山監督とは同期で、後輩たちの神宮球場での活躍はとても嬉しく、励みになります。

卒業後は地元大分のトキハ百貨店に十二年間勤務しました。主に紳士服売り場で販売の業務を担当させていただきました。お客様のニーズに応えていくことはとても難しい事ではありましたが、その分やりがいもありました。

現在はトキハ百貨店を退職し、実家のみかん農園を継いでおります。主に温州みかん、ポンカン、デコポンなどを作っています。これまでとは真逆の仕事で、屋外で自然を相手に日々奮闘しています。三年前からは恩師の誘いもあり、母校である大分県立大分舞鶴高等学校の野球部でコーチをさせていただいています。プレーする側から全体を見渡す側へと立場は変わりましたが、また野球に携われることに感謝しています。少しでも選手の成長の手助けができるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

また、昨年から院友会大分県支部のU―50（五十歳以下）の担当幹事として活動しています。若い世代の院友が参加しやすい雰囲気、環境作りをしていきたいと思います。これからを担う五十歳以下の活性化をはかり、院友会大分県支部の発展につなげていきたいと考えています。

園田吉治（106経／支部事務局U―50担当）記

法学部OB・OG会

◎会長…秋元 善行（あきもと・よしゆき／86法）
◎事務局…渋谷区東四―一〇―二八 國學院大學神道研修事務課 大久保 規志（106法）
☎〇三―五四六六―〇一五五

ホテルで活躍中

國學院大學法学部OB・OG会では、天野槙子（あまの・まきこ）氏（113法）を現在活躍中のOGとしてご紹介いたします。

天野槙子氏は母校法学部法律学科在学中、春田博教授の会社法・証券取引法ゼミに所属し、大学卒業後、株式会社東急ホテルズに就職され、現在はセールス&マーケティング部のアシスタントチーフとしてご活躍中です。

東急ホテルズは全国に四十四のホテルを展開し、国内外のお客様に「TOKYU CONFORT」居心地のいいホスピタリティを提供するため、ブランド力を強化し、全国の都市に新規出店を進めています。東京オリンピックの開催される二〇二〇年には国内四十七ホテル、一万三千室を目指しています。

法学部卒業生で活躍中の天野氏より新院友へ応援メッセージを頂いておりご紹介いたします。

『ご卒業、誠におめでとうございます。大きな夢と希望、そして、少しの不安を抱きながら大学を巣立たれることと思います。大学での学びや経験は財産となり、出会った多くのご友人は一生の宝です。ぜひ大切にしてください。皆さまの新しい世界でのご活躍を心から祈念しております。』

大久保規志（106法）記

天野槙子さん

◆行政書士法人友綱国際法務事務所北九州事務所 〒八〇二―〇〇六四 北九州市小倉北区片野二―一五―一二 東暲ビル六階 ☎〇九三―九六七―三三八一 FAX〇九三―九六七―三三八二 ※現在は開設準備中

吉田真人（106法）記

祝電サービス実施中！

本会では、結婚される院友の方々へ祝電をお贈りしております。ぜひご利用ください。

お申し込み方法

①申込者のお名前（ふりがな付き）、ご住所、電話番号、卒業期
②結婚される方のお名前（ふりがな付き）、ご住所、電話番号、卒業期
※院友のご家族の場合は続柄（一親等以内）
③結婚式の日時
④お届け先（〒、住所、電話番号、会場名／ふりがな付き）
⑤新居の住所、電話番号
以上を正確に明記の上、ハガキ、FAXまたはメールで一週間前までにお申し込みください。

お申し込み先

國學院大學院友会 〒150-0011 東京都渋谷区東4-12-8
TEL 03-3400-7781 FAX 03-3400-7996 電報サービス係宛
メールアドレス：inyuukai@kokugakuin.or.jp

もっと日本を学ぼう
―公益目的事業を全国で展開―

今年度も院友会報等でお知らせや、ご報告したとおり、各支部主管で様々な公益事業が行われました。開催に際しては、院友の皆さまをはじめ、関係機関等のお力添えをいただきました。厚く御礼申し上げます。本会に課せられている「公益目的支出計画」に基づき、順調に実施することが出来ました。

明年度も複数支部で公開講演会等の計画がございます。決定次第、院友会報・ホームページ等でお知らせいたします。ぜひご期待ください。

報告

公開講演会「どの子も伸びる『人間開発』の人づくり」～『修理固成』(古事記)の人育て～を開催
静岡県西部支部

平成三十年度、静岡県西部支部総会、並びに公益事業の一般公開講座を十二月八日（土）、会場はグランドホテル浜松にて開催いたしました。

本年度は國學院大學人間開発学部前学部長の新富康央先生をお迎えし、ご講演をいただきました。講演は「どの子も伸びる『人間開発』の人づくり～『修理固成』の人育て」という題目です。小学生の子どもを持つ私としては、非常に興味深く講演を拝聴させていただきました。

「教育とは人づくり」という思想は日本固有の教育形態であるという事。これは欧米諸国では「教育＝人育て」という思想は無いという事であります。また、子どもにはポジションを作ってあげるという事。これは、役割を与えることで自分は大切な人間なんだと思うように導いてあげる。新富先生にはご自身の子育てでの体験談を含めてお話いただきました。

ただ、こういった考えとは裏腹に、児童虐待などの問題が昨今多くなっています。そのような人達には、是非ともこのような考えを持ち、子どもと接していって欲しいと感じる事でもありました。

報告

文化講演会・シンポジウム「折口信夫と釈迢空～現在からみる折口博士の遺風～」を開催
愛媛県支部

平成三十年十二月十二日、松山市立子規記念博物館において標記講演会を開催しました。当日は、県内外から関心を寄せている高等学校生を中心に三百名程の来場があり盛況裏に幕を閉じることができました。國學院大學及び若木育成会のご支援、そしてご後援をたまわりました愛媛県教育委員会、松山市教育委員会をはじめ、県内関係機関各位に感謝を申し上げる次第です。

基調講演では、林望氏の新見解に満ちた素晴らしい内容に会場内固唾を飲んで聞き入りました。

折口信夫と釈迢空とが新たな座標を得て蘇った感がありました。続くパネルディスカッションでは子規記念博物館館長の竹田美喜氏が、釈迢空と短歌について正岡子規との対比でその素晴らしさを語ってくださいました。近代の和歌史を論じる上でも大きな足跡を見て取ることができました。もう一人のパネリストである國學院大學文学部教授の久野マリ子氏は、折口民俗学の原点とも言える南島での民俗採訪の様子を母校博物館収蔵の貴重な写真の数々とともにお話くださり、若き折口博士の胸のうちにあった熱き思いの一端に触れることができました。

本講演会を通じて「現在（いま）からみる」という営みの大切なことを学ぶことができました。それによって折口学、折口芸術の今日になお通用するものであるという認識を新たにすることができました。國學院の学び舎に集う若者が増えることを期待したいと思います。

副支部長
清水　史（85文・87博前文・91博後文）記

基調講演の林望氏

「院友の活躍」を表彰

講演前の支部総会では、今年度支部内の院友でご活躍された二名を表彰する初めての試みをしました。一人目は上遠野久美（かとうの・ひさよし／71文）さん。六月の全日本高齢者武道大会の剣道部門で優勝され内閣総理大臣賞を受賞。二人目は高橋利和（たかはし・としかず／117法）さん。夏の全国高校野球選手権大会で、母校でもある常葉大菊川高校の野球部監督として甲子園に出場されました。今後も、静岡県西部支部から院友の活躍が発信できれば嬉しく思います。

支部事務局
原山剛一（105神）記

予告

公益事業・講演会を開催
鎮魂（ちんこん）・慰霊（いれい）の伝統行事 放生会（ほうじょうえ） 再考!!
福島県中通り支部・浜通り支部

福島県中通り支部と浜通り支部合同の支部総会を今年は、七月二十七日（土）にいわき市・新舞子ハイツにおいて開催します。記念講演を元力士で相撲甚句歌手として活躍している大至伸行（だいしのぶゆき）氏にお願いしました。演題は「相撲と神事」です。一般公開・聴講無料。院友会では被災地復興支援事業を推進していますが、東日本大震災発生年の八月より、私共は被災地にあって、実に有難く勇気付けられて取組むことができました。

飯野八幡宮（いわき市）に奉納されている絵馬

いわゆる3・11によって多くの人々の命と鳥獣虫魚、そして山川草木の美が失われてしまいました。神社神道界では同年より、「千度大祓い・放生の儀」を海の日前後にいわき市小名浜港において斎行し、母校神道文化学部学生らも毎年参加していただいております。

さて、東電福島原発は浜通りの中間点にありますが、その近辺の双葉市・浪江町にまたがる地区に「復興祈念公園・子どもおまつり広場」が計画されています。そこは単なるイベント会場であっていいのでしょうか。今に続く民俗芸能の原型は神仏習合時代の放生会で行われていたものと思われます。支部ではすでに、流鏑馬・獅子舞・田植踊・口琴などを取上げてきました。今回は、放生会で行われた相撲に注目したいと思います。

百五十年前の神仏分離令によって、か細くならざるをえなかった放生会のもつ意味を見直し、鎮魂と慰霊につなげたいと切望しています。

開催は次のとおりです。ぜひご参加ください。

支部長
山名隆弘（72史・123博後史）記

日時　7月27日 ※新元号元年（土）　開会式12：20～／講演会13：00～
会場　いわき新舞子ハイツ（いわき市平下高久）
演題　「相撲と神事」（仮）※聴講無料・一般公開
講師　大至伸行（だいしのぶゆき／本名：高野伸行）　押尾川部屋所属の元大相撲力士（最高位前頭三枚目）
主管　國學院大學院友会福島県中通り支部・浜通り支部
後援　福島県神社庁・神社庁いわき支部・いわき大祓の会・特定非営利活動法人民俗芸能を継承するふくしまの会
協力　夏井小学校こども相撲くすのき部屋

支部長会議（新元号元年度・通算39回目）開催のご案内

日時　新元号元年５月25日（土）
午後３時から
会場　國學院大學：渋谷キャンパス内

例年、５月に開催している支部長会議を来る５月25日（土）に母校渋谷キャンパス内で行います。この会議は毎年全国の支部長と事務局担当者をお招きし、本部の事業報告及び計画を説明し、支部との情報交換、事務諸手続きの方法を確認します。また支部からの要望等をお聞きする場ともなっています。このほかに母校國學院大學から教育方針や報告など、説明を受ける重要な会議です。

明年度は院友大会も同日に開催することが決定しており、会議終了後、出席者は院友大会に参加していただくことになっています。

※会議のご案内は４月以降にご送付いたします。

國學院と院友の絆をつなぐ
オフィシャルクレジットカード
「國學院カード」誕生！

ご利用金額の一部が学生・生徒等の活動支援に活用されます。
また、國學院カードに加入すると独自の優待サービスを受けられます。
※詳しいサービス内容は大学HPをご覧ください。

國學院カードのお申し込み方法
下記のHPよりWEB上でお申し込みください。
紙面での申し込みを希望される方は経理課にお問い合わせください。

協力店の募集について
國學院大學では、國學院カード利用者への優待サービスをご提供いただける協力店を募集しております。ご協力をいただける企業・店舗については大学HPやチラシ、学内イベント等で学生や院友にご紹介させていただきます。　※詳しくは経理課へお問い合わせください。

資料請求・お問い合わせ先
國學院大學 経理課(担当：鈴木、清水)
TEL：03-5466-0115　MAIL：keiri@kokugakuin.ac.jp
WEB：國學院大學ＨＰ＞卒業生＞卒業生向けサービス＞國學院カード

「國學院カード」HP QRコード

新元号元年度（2019年度）國學院大學院友大会のご案内

皆さま、お誘い合わせの上、ご出席ください。

新元号となる今年５月、この記念すべき節目の月に、毎年恒例の院友大会を開催いたします。今回も会場は母校渋谷キャンパス内です。全国の院友の皆さんはもとより、127期生（新院友）の皆さまも情報交換の場として、ぜひお越しください。
～「全国銘酒コーナー（西日本編）」～もあります。

日時：新元号元年 5月25日㈯　午後６時から
会場：國學院大學渋谷キャンパス 130周年記念5号館「アリーナ」
東京都渋谷区東4-10-28
会費：5,000円／125期～127期（新院友）3,000円
ご家族の同伴割引、在学生の割引もあります。詳しくはお問合せください。
※なるべく事前にお振込ください。ご協力お願い申し上げます

「我が家は3世代國大生」ご応募ください

國學院大學院友会では、親子３世代にわたり國學院大學で学び、卒業された方々（故人、在学も含む）に対して、感謝の意を表しております。対象は、親子３世代（直系の親・子・孫）が國學院大學または皇典講究所の卒業生で、当日１名以上が院友大会に参加できる方とさせていただきます。

該当の方は、同封の院友大会出席ハガキの「我が家は３世代國大生」欄に必要事項をご記入の上、お知らせください。当日、記念品をお贈りいたします。なおご応募は１回限りとさせていただきます。

院友大会ご出席の際は、同封の出席はがき（切手不要）・Ｅメールでお知らせください。**《5月15日（水）必着》**

当日は、出席者名簿（卒業期・学科・氏名・勤務先・役職を記載）を配付いたします。

※今回は、公開講演会は都合により開催いたしません。ご了承ください。

お申込・お問合せ
一般財団法人 國學院大學院友会
☎03-3400-7781／FAX03-3400-7996
inyuukai@kokugakuin.or.jp